公表日　　平成２２年１２月２０日
最新更新日　平成２２年１２月２０日

健康科学部

看護学科

専門教育科目
教職に関する科目

教育目標

教育理念・目的

人の尊厳を基盤とした豊かな人間性を培い、看護専門職者としての知識と技術を修得し、多様化する社会の中で生活する人びとの健康・福祉に貢献することをめざす。さらに、国際社会で貢献できる能力を備えた人材を育成する。

教育目標

１．豊かな感性と人間性を育み、幅広い視点で人とその生活について理解するとともに、命の尊厳と人間尊重について考え、実践することができる基礎的能力を養う。

２．多様な価値観を持つ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、ケアに必要な協働関係を形成できる基礎的能力を養う。

３．成長発達段階や健康レベルにおける健康課題を持つ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護実践能力を養う。

４．保健・医療・福祉ケアにおけるリーダーシップとマネージメント能力を養う。

５．保健・医療・福祉の領域において、多様な職種と協働して人びとの健康レベルの向上に貢献できる基礎的能力を養う。

６．国際的な視野をもち人びとの健康に対し、実践を通して貢献できる基礎的能力を養う。

７．将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる基礎的能力を養う。

平成 22 年度
(2010 年度)
入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合　　計		124 単位	110 単位	56 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門基礎科目	I群（健康支援と社会保障制度）	社会福祉論	講義		2					2							（牧田 満知子）
			家族関係論	講義		2						2						
			精神保健	講義		2			○		2							［南川 康博］
			環境衛生学	講義		2			○					2				
			保健福祉行政論	講義	2		◇	□					2					
			公衆衛生学（疫学含）	講義	2		◇	□	○				2					
			保健統計学	講義	2		◇	□	○			2						
		II群（人体の構造と機能）	基礎生物学	講義		2				2								本多 久夫
			形態機能論	講義	4		◇	□	○		4							坪田 紀明
			生化学	講義		2					2							［吉田 千秋］
			栄養学（食品学を含む）	講義		2			○		2							（増村 美佐子）
			薬理学	講義	2		◇	□	○			2						
			免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○		2							［田邊 誠］
		III群（疾病の成立及び回復の促進）	臨床病理病態学Ⅰ（内科系）	講義	4		◇	□				4						
			臨床病理病態学Ⅱ（外科系）	講義	2		◇	□					2					
			臨床病理病態学Ⅲ（周産期・小児科系）	講義	2		◇	□				2						
	専門実践科目	IV群（基礎看護学）	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2								道廣 睦子
			看護理論	講義	1		◇	□	○		1							道廣 睦子
			ヘルスアセスメント	講演	1				○		2							道廣・小林
			看護技術論Ⅰ（生活技術援助）	講演	2		◇	□	○			4						
			看護技術論Ⅱ（診療技術援助）	講演	2		◇	□	○				4					
			基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○		3							道廣・小林
			基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○				6					
			看護教育学	講義	1		◇	□						1				
			看護管理学	講義	1		◇	□						1				
		V群（成人・老年看護学）	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					
			成人看護援助論Ⅰ（生命危機状態にある人）	講義	2		◇	□	○					2				
			成人看護援助論Ⅱ（常態の維持・増進が困難な人）	講義	2		◇	□	○					2				
			成人看護学実習Ⅰ	実習	3		◇	□							9			
			成人看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□							9			
			老年看護学概論	講義	2		◇	□					2					
			老年看護援助論	講義	2		◇	□						2				
			老年看護学実習Ⅰ	実習	2		◇	□							6			
			老年看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□							6			
		VI群（母性・小児看護学）	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					
			母性看護援助論	講演	2		◇	□	○					4				
			母性看護学実習	実習	2		◇	□							2			
			小児看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
			小児看護援助論	講演	2		◇	□	○				4					
			小児看護学実習	実習	2		◇	□	○						6			

※栄養学（食品学を含む）は看護師、保健師の資格必修ではありません。

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門実践科目	Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）	精神看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					
			精神看護援助論	講義	2		◇	□	○					2				
			精神看護学実習	実習	2		◇	□	○						6			
			在宅看護概論	講義	2		◇	□					2					
			在宅看護援助論	講義	2		◇	□						2				
			在宅看護実習	実習	2		◇	□							6			
			地域看護学概論	講義	2			□					2					
			地域看護活動論	講義	2			□						2				
			産業保健論	講義	1			□						1				
			学校保健概論	講義	1			□	○				1					
			国際看護学	講義	1			□									1	
			災害看護学	講義	1			□									1	
			地域看護学実習	実習	3			□								9		
	統合科目	Ⅷ群（看護の統合と実践）	看護研究Ⅰ（基礎編）	演習	2									2				
			看護研究Ⅱ（応用編）	演習	2											2		
			リスクマネジメント論	講義		1								1				
			看護の統合と実践実習	実習	2										6			
	関連科目	Ⅸ群（関連）	学校保健活動論	講義		2			○					2				
			学校保健演習	演習		2			○						2			
			養護概説	講義		2			○				2					
			健康相談活動の理論と実践	講義		2			○							2		
	基礎科目	Ⅹ群（基礎）	基礎ゼミ	演習	2				○	2								*1

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

*1 道廣・本多・式・坂上・辻・加藤（知）・若井・齋藤・段・小林・川上・山下

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
教職に関する科目	教職概論	講義		2			○	2								[上寺 常和]
	教育原理	講義		2			○	2								(廣岡 義之)
	教育心理学	講義		2			○				2					
	教育制度論	講義		2			○		2							(廣岡 義之)
	教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			○				2					
	教育方法・技術論	講義		2			○				2					
	教育方法論	講義		2			○						2			
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○			2						
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○		2							(琴浦 志津)
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○							5		
	教職実践演習（養護教諭）	演習		2			○								2	

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	社会福祉論				
担当者名	牧田　満知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
本講義では社会福祉の構造や機能について、その形成要因を検討し、日本の社会福祉制度の特質を明らかにするとともに、社会福祉制度をとりまくさまざまなイシューを、事例問題を議論する中から批判的に考察し、解決策を模索するという知的好奇心を涵養する。

《授業の到達目標》
現代社会における社会福祉の政策、法体系、制度およびその運用を理解し、今日の社会でのおｓの意義や役割について学ぶ。

《テキスト》
最初のオリエンテーション時に紹介する。

《参考文献》
『人口減少時代の社会福祉学』小田兼三編著、ミネルヴァ書房、2007

《成績評価の方法》
授業等への参加に関する評価 50%、定期試験による評価 50%

《授業時間外学習》
テキストの関連個所を予習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション 講義計画、講義内容、および受講の心得について説明し、社会福祉に関わる基本的文献についても解説する。
第 2 週	社会福祉学概説 「社会福祉を学ぶとは何か」という根本的な命題を考える。実態概念としての社会福祉と目的概念としての社会福祉など基本的な専門概念について詳述する。
第 3 週	社会福祉の理論と理念 社会福祉の２大理論体系である考橋理論、岡本理論を中心に、社会福祉問題を考察する。
第 4 週	日本の社会福祉の歴史的沿革 近代から現代に至る福祉国家形成過程を跡付ける。
第 5 週	少子高齢化問題 資料、データなどに基づき、現代社会福祉の争点とされる問題について議論する。
第 6 週	社会福祉の制度としくみ 法が規定する行為や活動の総体が「制度」すなわち法の実体である。あそれらは所得保障、医療保障、そして自立保障と大別できる。その内容について概説する。
第 7 週	社会福祉の行財政 社会福祉における国と地方の財政の概要と課題、および民間団体の財政支援について概説する。さらに福祉サービスに関する利用や負担の考え方、負担の原則、方式について詳述する。
第 8 週	社会福祉制度と実施体制 社会福祉の運営を担当する国、および地方公共団体の行政組織を学ぶ。さらに福祉行政の役割や事務事業について理解を深める。
第 9 週	高齢者の福祉と介護保険について概説し、事例をもとに考察を深める。
第１０週	児童、家庭問題について概説すし、事例をもとに考察を深める。
第１１週	障害者の福祉と自立支援法について概説し、事例をもとに考察を深める。
第１２週	地域福祉の現状と課題について概説する。
第１３週	社会福祉援助の理念、理論、方法論について学び、他者支援の理解を深める。
第１４週	保険・介護・福祉の連携を理解し、事例をもとに考察を深める。
第１５週	まとめと質疑応答

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	精神保健				
担当者名	南川　康博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
心の健康・心の問題について正しく理解し、専門的知識を実践で活かすことはさまざまな分野において必須となる。最初に、精神保健の意義や歴史について学ぶ。またその対象である人の心の構造と機能を生物学的観点から科学的に学ぶ。次に、心の病的状態について精神医学的観点から学習する。精神症候学により精神科特有の精神症候を理解し、各論では代表的な精神疾患の病態・治療の概要を学ぶ。また、心の健康の保持・増進の基本的理念を正しく認識し、社会において必要な精神保健活動や精神保健福祉の制度について理解を深める。

《授業の到達目標》
精神保健の基本理念と社会における実践・福祉について理解し、説明することができる。

《テキスト》
『精神看護学Ⅰ精神保健学』　吉松和哉他編　ヌーヴェルヒロカワ

《参考文献》
精神保健学　精神福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）
国民衛生の動向　厚生統計協会編（厚生統計協会）
我が国の精神保健福祉　精神保健福祉ハンドブック　精神保健福祉研究会監修（太陽美術）
世界の精神保健医療　新福尚隆ほか著（へるす出版）

《成績評価の方法》
筆記試験 70%、平常評価 30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度など）により総合的に評価する。

《授業時間外学習》
次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《備考》
精神保健学は心の健康増進や維持に関わる広範な学問であり、医療関係者だけでなく、専門外の全ての人々が知っておくことが望ましい。とくに将来メンタルヘルスに関わる職業につく場合は必須であるので、是非受講してほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	精神保健の基礎知識： 1)精神保健とは 2)精神保健医療の歴史 3)精神保健の意義と課題
第 2 週	ライフサイクルにおける精神保健： 1)胎児期・乳幼児期における精神保健 2)学童期における精神保健 3)思春期における精神保健 4)青年期における精神保健 5)成人期における精神保健 6)老年期における精神保健
第 3 週	精神疾患の基礎知識Ⅰ： 1)脳の構造と神経活動のメカニズム 2)脳の機能と精神活動
第 4 週	精神疾患の基礎知識Ⅱ： 精神症候学の概要
第 5 週	精神疾患の基礎知識Ⅲ： 代表的な精神疾患の概要
第 6 週	精神疾患の基礎知識Ⅳ： 代表的な精神疾患の治療の概要
第 7 週	精神保健における個別課題への取り組みⅠ： 1)精神障害者対策 2)認知症対策
第 8 週	精神保健における個別課題への取り組みⅡ： 1)アルコール関連問題対策 2)薬物乱用防止対策
第 9 週	精神保健における個別課題への取り組みⅢ： 1)思春期の精神保健対策 2)地域精神保健対策 3)ターミナルケアと精神保健
第１０週	精神保健活動の実際Ⅰ： 1)家庭における精神保健 2)学校における精神保健
第１１週	精神保健活動の実際Ⅱ： 1)職場における精神保健 2)地域における精神保健
第１２週	地域精神保健と地域保健Ⅰ： 1)地域精神保健施策の概要 2)地域保健施策の概要
第１３週	地域精神保健と地域保健Ⅱ： 1)関係法規 2)関連施策
第１４週	諸外国における精神保健： 1)アメリカの地域精神保健 2) イギリスの地域精神保健 3) フランスの地域精神保健 4)諸外国における職場の精神保健
第１５週	精神保健の総括

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	基礎生物学				
担当者名	本多　久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

概要の全体は下の<<授業計画>>に示す。ポイントとなるところを幾つか挙げる。

♦身体の構造はとても複雑で多くの学生が学ぶのを敬遠する。しかし身体全体は袋でできていて、基本は袋であることを常に頭に入れておくと、身体の構造が明解に把握できるようになる。

♦身体は、袋はもちろん他のすべてのものも細胞と細胞が合成した物質からできている。細胞によってすべてが説明できるはずである。常に細胞を意識する思考を身につける。

♦細胞の性質や能力は遺伝子がきめている。現在は遺伝子の時代だと言われているが、遺伝子を過大評価でなく正当に評価するには、細胞の働きを知る必要がある。

♦生物の一番の特徴は自分と似た子をつくること（自己増殖）である。ここに設計図（遺伝子の集まり）が働いているところが重要。自己増殖に先立ち、子をつくるための設計図が複製され、この設計図に基づいて子ができる。

《授業の到達目標》

看護はヒトの病気や健康に関わる仕事だから、身体の仕組みや構造についての知識が必須である。この知識は膨大で学習するのが大変である。しかし基礎生物学を学んで、ヒトは生物の一員であることを自覚し、ヒトについて学んだ知識を生物全体のなかで位置づけるとよい。別々の知識がお互いに関連し、学習がはかどり、学んだ事柄の記憶が長持ちする。

《テキスト》

なし。

ノートをつくること。図表を主とした資料を項目毎に配布する。これを切り抜き貼りつけながら手書きのノートをつくること。

《参考文献》

『シートからの身体づくり』　本多久夫著(中公新書・中央公論社)　図書館にある。

『細胞の分子生物学』アルバーツ他著(ニュートンプレス社)。

『パッテン発生学』カールソン著[白井敏雄監訳](西村書店)。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8/10)、レポート提出(2/10)。全回出席が原則。

《授業時間外学習》

授業中にうつむいてノートばかりとらないこと。いつも話している者の顔を見て聴くように。ノートにはメモとして手早く、スペースを十分に空けながら書き、授業がおわってから、配布したプリントを切り抜きノートに貼り付け、補足を書き入れ自分のオリジナルのノートをつくること。

《備考》

授業には出てくること。この講義内容をまとめた手軽な教科書はない。

授業をおもしろく聴く方法は、授業に白紙の状態では出て来ないことである。かねがね疑問に思うこと、問いたいこと、自分の考えなどを用意して授業に臨むこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ⅰ. 身体は閉じた袋からできている 身体の外と内の区別は徹底している
第 2 週	上皮シートの変形による器官の形成(消化管・神経管・眼) もう一つの上皮シート系(血管系)
第 3 週	２つのシート系の接近(肺・腎臓・肝臓) 身体にみられる階層構造
第 4 週	Ⅱ. 細胞(Cell)は途切れのない細胞膜で完全に包まれている
第 5 週	細胞分裂(自分と同じものをつくる) 細胞分化は遺伝子発現の変化による
第 6 週	シグナル伝達・リセプター・なだれ現象 細胞の動き、細胞死
第 7 週	Ⅲ. 組織(Tissue)は細胞の集まりである 上皮組織−袋を構成する細胞から成る 結合組織−細胞外マトリックスをもつ組織
第 8 週	筋肉組織の働き
第 9 週	血管系の形成 細胞がひとりでに組織化する仕組み(細胞選別・細胞分化のラテラル抑制)
第１０週	Ⅳ. 細胞間の通信による調節および恒常性 内分泌系(ホルモン)
第１１週	パラクライン系(サイトカイン) 制御(ポジティブフィードバック・ネガティブフィードバック)
第１２週	Ⅴ. 脳・神経系 神経繊維は細胞である
第１３週	神経伝達 神経系ネットワーク
第１４週	Ⅵ. 免疫系 病原体からの感染の防御 Ｔ細胞・Ｂ細胞(抗体を産生する)
第１５週	自他の区別・未知の物に結合する仕組み

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	形態機能論				
担当者名	坪田　紀明				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》
骨 筋肉系，神経系，感覚器系，消化器系，循環器系，呼吸器系を，免疫系，泌尿器系，血液，内分泌系,生殖器系などの形態と機能を学ぶ．LAN を用いた「課題の配布と提出」を行う．

《授業の到達目標》
人体の構造と機能は医療に携わる者にとって全ての基礎であり，これを疎かにしてはその異常，即ち病態，病理が分らない．そうなれば２年次以降の学習についていけず，国家試験の合否に重大な影響を与える．人体の精巧にして不可思議な構造と機能を知って看護力の基礎を作る．もっとも大切なことは授業中の集中力である．通年授業である．

《テキスト》
系統看護学講座．人体の構造と機能 解剖生理学，第１巻 医学書院

《参考文献》
『好きになる解剖学〈Part2〉』竹内 修二
『解いておぼえる看護学生のための解剖生理学ドリル』 安谷屋 均 著（2003/01）照林社

《成績評価の方法》
1）ペーパーテスト 100%．下記を参照．出席状況等はあくまで参考資料である．

《授業時間外学習》
上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む．時間のあるときに１７号館を訪れ資料室の人体模型に親しむ．

《備考》
７月に前期履修範囲の仮試験を行う．年度末に全履修範囲の本試験を行う．合否の評価は年度末の本試験結果（仮試験を用いない）で行う．不合格者は１年間の再履修となる．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	総論：解剖と生理について
第 2 週	総論：解剖と生理について
第 3 週	栄養の消化と吸収１
第 4 週	栄養の消化と吸収１
第 5 週	栄養の消化と吸収２
第 6 週	栄養の消化と吸収２
第 7 週	呼吸と循環１
第 8 週	呼吸と循環１
第 9 週	呼吸と循環２
第１０週	呼吸と循環２
第１１週	体液の調整と尿の生成１
第１２週	体液の調整と尿の生成１
第１３週	体液の調整と尿の生成２
第１４週	体液の調整と尿の生成２
第１５週	まとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	形態機能論				
担当者名	坪田　紀明				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》
骨 筋肉系，神経系，感覚器系，消化器系，循環器系，呼吸器系を，免疫系，泌尿器系，血液，内分泌系,生殖器系などの形態と機能を学ぶ．LAN を用いた「課題の配布と提出」を行う．

《授業の到達目標》
人体の構造と機能は医療に携わる者にとって全ての基礎であり，これを疎かにしてはその異常，即ち病態，病理が分らない．そうなれば２年次以降の学習についていけず，国家試験の合否に重大な影響を与える．人体の精巧にして不可思議な構造と機能を知って看護力の基礎を作る．もっとも大切なことは授業中の集中力である．通年授業である．

《テキスト》
系統看護学講座．人体の構造と機能 解剖生理学，第１巻 医学書院

《参考文献》
『好きになる解剖学〈Part2〉』竹内 修二
『解いておぼえる看護学生のための解剖生理学ドリル』 安谷屋 均 著（2003/01）照林社

《成績評価の方法》
1）ペーパーテスト 100%．下記を参照．出席状況等はあくまで参考資料である．

《授業時間外学習》
上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む．時間のあるときに１７号館を訪れ資料室の人体模型に親しむ．

《備考》
７月に前期履修範囲の仮試験を行う．年度末に全履修範囲の本試験を行う．合否の評価は年度末の本試験結果（仮試験を用いない）で行う．不合格者は１年間の再履修となる．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	内蔵機能の調節１
第 2 週	内蔵機能の調節１
第 3 週	内蔵機能の調節２
第 4 週	内蔵機能の調節２
第 5 週	身体の支持と運動１
第 6 週	身体の支持と運動１
第 7 週	身体の支持と運動２
第 8 週	身体の支持と運動２
第 9 週	情報の受容と処理１
第１０週	情報の受容と処理１
第１１週	情報の受容と処理２
第１２週	情報の受容と処理２
第１３週	感覚
第１４週	感覚
第１５週	生殖と発生

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	生化学				
担当者名	吉田　千秋				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

生化学はアルコール発酵の研究に端を発した学問であり、物質代謝、エネルギー代謝の解明につづいて遺伝子 DNA のはたらきの解明へと発展した。生化学は解剖生理学とならんで人体の構造と機能を理解する上で必須の教科である。本講では分子、細胞および組織のレベルでこれまでに得られた知識を習得することにより正常な生命の維持、疾患についての理解を深めることを目標とする。

《授業の到達目標》

生命の営みを理解するには生体を構成する物質の構造と機能についての知識を習得することが大切である。本講ではまず体を構成するタンパク質、脂質、ミネラルおよび糖質について、つづいて円滑な代謝に関わる酵素、ビタミンとホルモンについて、最後に生命の本質である遺伝子について構造と機能を概説し疾病に関する理解を深める。

《テキスト》

『系統看護学講座　専門基礎（2）　人体の構造と機能（2）　生化学』　三輪一智・中恵一著（医学書院）

《参考文献》

『THE CELL』中村桂子・藤山秋佐夫・松原謙一監訳（KYOIKUSYA）

《成績評価の方法》

出席率 20、　受講態度 20、　小テスト 10、　定期試験 50

《授業時間外学習》

・テキストの内容がかなりくわしく、豊富ですのでより一層理解を深めていただくためには予習が必要と思います。シラバス通りに講義を進めますがもし変更がありましたら予告しますのでテキストに目を通すように心掛けて下さい。講義終了後必要により補講時間を設けますので利用して下さい。

《備考》

・私語は他の学生の勉学の妨げになりますので、厳しく対応します。理解できなかった部分は授業中または終わってから質問するなど積極性をもって受講してください。
・　テキストは生化学以外に食品学、栄養学関係の内容も含まれています。これらは時間的に解説するのが困難なので希望があれば補講の形で行います。
・

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	生体を構成する物質 生化学を学ぶための基礎知識：化学の基礎知識、原子と分子 非極性（疎水性）、極性およびイオン性分子（親水性）
第 2 週	生体を構成する物質：糖質の構造と機能 食品学と栄養学の内容の部分は簡単に説明し構造多糖に重点を置いて説明する
第 3 週	生体を構成する物質：脂質の構造と機能 食品学と栄養学の内容の部分は簡単に説明し細胞膜成分（リポタンパク質とりん脂質）に重点をおいて説明する
第 4 週	生体を構成する物質：タンパク質の構造と機能 機能による分類と組成による分類について解説する 化学反応を触媒するタンパク質（酵素）のはたらきを概説する
第 5 週	ビタミンのはたらき 脂溶性ビタミン（A、D、E、K）と水溶性ビタミン（C と B 群）について概説する
第 6 週	生体内物質代謝：糖質の代謝 糖質の消化吸収と解糖系およびクエン酸回路（TCA 回路）におけるエネルギー産生のしくみについて概説する
第 7 週	生体内物質代謝：脂質の代謝 脂質の消化と吸収、脂質の輸送、ミトコンドリアにおける β 酸化機構について概説する
第 8 週	生体内物質代謝：タンパク質の代謝 タンパク質の消化と吸収、α-ケト酸と代謝、尿素の生成
第 9 週	核酸の構造と機能 ヌクレオシドとヌクレオチド DNA と RNA の構造
第１０週	ポルフィリン代謝：ヘムの分解とビリルビンの代謝、黄疸 代謝異常：骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症について概説する
第１１週	遺伝情報とその発現 DNA の複製、タンパク質合成
第１２週	ホルモンと生理活性物質：恒常性（ホメオスタシス）の維持と外部刺激への応答 ホルモンの種類と作用機序　特にインスリンとアドレナリンについて概説する
第１３週	血液：血液の構成成分とはたらき 血球の産生とはたらき、血漿タンパク質のはたらきについて概説する
第１４週	腎臓：ネフロンの構造、尿の生成　ナトリウムイオンおよび水の再吸収のしくみ 尿と臨床検査、ネフローゼについて概説する 細胞小器官についてのまとめ
第１５週	小テスト、学習のまとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	栄養学（食品学を含む）				
担当者名	増村　美佐子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本教科では、①健康増進に寄与することができる、②健康的な食生活を企画できる、③ライフステージや健康状態に適した食事を考案できる、ことを目的にしています。
食事摂取基準の目指すもの、その意義、および使い方などについて講義します。また、「健康日本２１」との関連からも自己および対象の健康を向上させる食生活のあり方、食品類の選び方に関心を寄せ、実践できる基本を修得するものとします。

《授業の到達目標》

栄養と栄養素についての説明が可能となる。
国民栄養の現状の説明が可能となる。
摂取推奨量に適する食品の選択が可能となる。
ライフステージの生理と食事についての説明が可能である。

《テキスト》

「保健・医療・福祉のための栄養学」渡辺早苗、寺本房子、丸山千寿子、藤尾ミツ子編（医歯薬出版株式会社）2007
「系統看護学講座　人体の構造と機能３　栄養学」　小野章史、杉山みち子（医学書院）2010

《参考文献》

「国民栄養の現状」健康・栄養情報研究会編（第一出版）
「日本人の食事摂取基準　2010 年版」厚生労働省策定（第一出版）2009
「糖尿病食事治療のための食品交換表　第７版」日本糖尿病学会編（文光堂）
「第８版　腎臓病食品交換表　治療食の基準」黒川　清監修（医歯薬出版株式会社）
「何をどれだけたべたらよいか」香川芳子監修（女子栄養大学出版部）
「五訂増補 食品 80 キロカロリーガイドブック」（女子栄養大学出版部）

《成績評価の方法》

①出席が授業回数の 70%以上の学生を成績評価の対象とします。
②課題提出 20%
③筆記試験 80%
④試験は 40 点未満は年度内の再評価はない。

《授業時間外学習》

・予習の方法
授業終了後に次回の予告をしますので、教科書を予習してきてください。また、課題を出した場合はその課題 を行ってきて下さい。
・復習の方法
授業内容を再確認し、不明な点は質問するか自己学習してください。
栄養のバランス・食品の選択法を修得してもらうために食事記録を書いてもらいます。

《備考》

毎日、新聞やニュースに目を通し、栄養や食品についての情報に触れる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	・本教科の目的 ・栄養とは ①栄養の定義、②栄養素の種類
第 2 週	日本人の食事摂取基準の活用法
第 3 週	国民栄養の沿革と現状 ①国民健康・栄養調査、②調査結果の概要 ★メタボリックシンドローム
第 4 週	関連法規、健康日本 21　その他 ★健康増進法
第 5 週	健康と食生活（健康と食生活をテーマに自己を振り返り、評価する） ①食生活、食習慣、食事量、生活時間など
第 6 週	食品と栄養 ①食品群（考え方と食品群の種類）
第 7 週	②食品群（特徴の理解）
第 8 週	③食事バランスガイド
第 9 週	④食品の選択・食品交換の基本（糖尿病食品交換表・腎臓病食品交換表）
第１０週	食事摂取基準推奨量に適合する食品の選択
第１１週	「各ライフステージ」の生理と食事 １．妊娠期・授乳期の栄養管理　★腸内環境
第１２週	２．乳幼児期・学童期の栄養管理
第１３週	３．思春期の栄養管理
第１４週	４．成人期の栄養管理
第１５週	５．高齢期の栄養管理・重要項目のまとめ

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	免疫・微生物学				
担当者名	田邊　誠				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

新型インフルエンザの大流行に始まり、ますます深刻化する薬剤耐性菌による院内感染症や、老人ホームでの食中毒集団発生など感染症にまつわる話題は枚挙にいとまがありません。歴史を紐解けば医学はペスト、天然痘、結核などの伝染病との闘いを通じて発展してきたと考えられます。これから医療人として働いてゆくみなさんも多くの感染症に出会い、治療してゆくことになります。自分を守り、患者やその家族を守りながらおおくの感染症に立ち向かってゆくためには、感染症の原因である微生物について理解することが大切です。本講座では感染症の成り立ちとその原因を知り、対応方法を理解することを目標とします。

《授業の到達目標》

①微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。
②代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。
③「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。
③感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。
④病院で働く際に実際に出会う様々な感染症についても臨床実践シリーズとして取り上げる。微生物学の知識が現場でどのように役立つかを理解する。

《テキスト》

系統看護学講座・専門基礎分野　　微生物学　疾病のなりたちと回復の促進　［3］
南嶋洋一・吉田真一　著　（医学書院　第１１版）2009
プリント配布

《参考文献》

《成績評価の方法》

期末試験 60%（試験はテキストなどの持ち込み不可）、レポート・出席　各 20%で評価します。
ただし出席数が 3 分の 2 を満たさない場合は期末試験の受験資格を失います。20 分以上の遅刻、早退も欠席扱いとなります。
また講義中の質疑応答もレポートの一部として加点・減点の対象とします。

《授業時間外学習》

授業で配布するプリントはテキストをもとに、国家試験対策資料を合わせて作成しています。授業後テキストの該当箇所をよく読み、知識をより確実なものにしてください。

《備考》

微生物には多くの種類があり、すべてを覚えるのは無理があります。感染症の基本を理解し、予防・診断・治療に至る原則を会得することが大切です。本講座では国家試験に出題されたテーマを中心に講義を進め、対策を行うとともに、働き始めてからも役立つ知識を身につけていただきたいと思います。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	微生物とは
第 2 週	細菌のしくみ　　臨床実践シリーズ①
第 3 週	真菌・原虫の性質　　臨床実践シリーズ②
第 4 週	ウイルスのしくみ
第 5 週	感染の成り立ち
第 6 週	免疫のしくみ　　ワクチンについて知ろう
第 7 週	免疫のしくみ　　病気とのかかわり
第 8 週	感染の予防　滅菌と消毒
第 9 週	感染症の診断
第１０週	感染症の現状と対策
第１１週	細菌感染症各論①
第１２週	細菌感染症各論②　　ウイルス感染症各論①
第１３週	ウイルス感染症各論②
第１４週	真菌・原虫感染症各論
第１５週	総括　重点項目の確認

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	看護学概論				
担当者名	道廣　睦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

看護学概論は看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学全体の基本的内容を含む。看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解し看護学の豊かさや奥深さをイメージさせ、関心を高め各領域の看護学への学習意欲を鼓舞させるための科目である。本授業のねらいは看護の基本的概念（人間、健康、環境、看護）の理解を踏まえ、看護学の知識体系（理論）の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間（対象）について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニードの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。看護の基本は患者の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することであり、生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することを認識する。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性について理解すると共に、生命倫理上の諸課題について考察する。

《授業の到達目標》

・社会の中で健康問題を持って生活する人間について、全人的な存在であることを説明できる。
・人間の欲求行動を看護学的視点で理解し、生活支援としての看護の重要性について説明することができる。
・科学的思考に基づいた看護の重要性を具体的に述べることができる。
・保健福祉医療システムの中での専門職としての看護の役割と責任について説明できる。
・生命・人間の尊厳や人権についての知識を修得し、看護と倫理的・法的問題について説明できる

《テキスト》

・川村佐和子編；ナーシング・グラフィカ⑯、看護学概論、メディカ出版、2009
・Ｆ．ナイチンゲール著、薄井坦子訳：看護覚え書き―看護であること、看護でないこと―、現代社、2002
・V．ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2006

《参考文献》

・M.メイヤロフ著、田村真・向野宣之訳：ケアの本質―生きることの意味―ゆるみ出版、2006
・日本看護協会：看護白書、日本看護協会出版会 2009

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション（20%）、筆記試験（50%）、学術的なレポートの提出（30%）により総合的に行う。

《授業時間外学習》

・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
・授業終了時、課題を出すので、次回提出すること。

《備考》

・配布資料は必ずファイルしておくこと。・講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	看護って何だろう？：看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方、ケア/ケアリングの概念、
第 2 週	専門的看護の発展：近代看護の歴史的変遷、わが国の看護改革と看護の専門職化
第 3 週	専門的看護の役割・機能：ヘルスケア提供システム、看護の場、看護の役割、・責任
第 4 週	社会の変化と看護の役割拡大：わが国の保健・医療・福祉の状況、日本における専門看護師、認定看護師他
第 5 週	看護の主要概念：人間、社会、健康、看護
第 6 週	看護の諸理論：ナイチンゲール、ヘンダーソン、オーランド、ペプローの看護理論
第 7 週	健康、病気とウエルネス：健康と病気、健康と病気に影響する要因、健康信念モデル
第 8 週	環境と健康：国民の全体像としての健康把握（少子高齢化の実態、死亡を通して見る健康問題）、個人と環境
第 9 週	看護の対象①：人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローのニーズの階層、人間のニーズと看護
第１０週	看護の対象②：ストレスと適応、ストレスの基本概念、ストレスコーピング、危機状態と介入
第１１週	看護活動①：直接看護活動、保健医療福祉チームなどの活動の仲介・調整、
第１２週	看護活動②：看護過程
第１３週	看護活動③：看護過程
第１４週	患者の権利をめぐる歴史的変遷；ニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、日本における患者の権利 医療従事者と倫理：倫理とは、倫理原則、生命倫理、医療倫理、患者主体の医療：インフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務
第１５週	看護師の責務：法的な責任（医療法、保助看法）、倫理的な責任（専門職能団体がもつ倫理綱領）

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	看護理論				
担当者名	道廣　睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

看護の本質とは、看護を「看護」として成り立たせている独自の性質です、看護の本質を自ら探究してきた人々が看護理論家であり、看護理論家たちは「看護って何だろう」と考えてきた人達です。本授業は看護理論家が看護をどのように見ているかを知ることで看護の質を向上させることがねらいです。看護理論をわかりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進めていきます。例えば、「看護理論家は理論を書くときいったい何を材料にしたのだろう」「看護理論の中の骨格部分に何が書かれているか」「「看護で中心的な概念、つまり人間・環境（社会）・健康・看護をどのように捉えているのか」など考えていきます。また、看護が art であり、science であると位置づけられている根拠を分析してみることにより、caring としての看護の意味をより深く理解する。さらに、看護過程の中で看護理論がどのように活用されているかを知り、看護実践と結びついた理論について考察する。

《授業の到達目標》

・看護実践を支える看護理論の重要性が説明できる。
・実践、理論、研究の関係を説明できる。
・看護に用いる主要な看護理論を述べ、各理論家の理論の特徴を類別できる。
・看護理論を看護過程に応用できる。

《テキスト》

教材は授業で配布する、参考文献は授業中に紹介する。

《参考文献》

・Ｆ．ナイチンゲール著、薄井坦子訳：看護覚え書き―看護であること、看護でないこと―、現代社、2002
・V. ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2006

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション（20%）、筆記試験（50%）、レポートの提出（30%）により総合的に行う。

《授業時間外学習》

初回授業の際、課題を提出する

《備考》

・配布資料は必ずファイルしておくこと。・講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	看護理論開発の歴史：看護の理論化、看護の科学化、医学モデル、看護モデル
第 2 週	看護理論の範囲：総合理論（大理論）、中範囲理論、小範囲（実践）理論
第 3 週	看護理論の共通要素：人間、環境（社会）、健康、看護、
第 4 週	看護理論と実践：看護実践について、理論との関係、実践の中の看護理論応用例、看護理論の有効性と限界
第 5 週	看護の諸理論をわかりやすく読むための枠組み
第 6 週	看護の諸理論：演習１
第 7 週	看護の諸理論：演習２（発表・まとめ）
第 8 週	看護理論と看護過程：看護過程の概観と看護理論の適用方法）、看護理論と看護研究：看護研究とは、看護研究への活用方法
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	ヘルスアセスメント				
担当者名	道廣 睦子・小林 廣美				
授業方法	講演	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
「看護の対象となる人の健康状態を理解すること」をねらいとして，「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を習得する.

《授業の到達目標》
受講生の準備性にあわせて設定する.

《テキスト》
藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド，学研，2001.

《参考文献》
小野田千枝子：実践！フィジカル・アセスメント，金原出版株式会社，2008.

《成績評価の方法》
筆記試験 80%，演習内容 20%で評価する.
筆記試験で総得点の 6 割に満たない者対象の再試験を実施しない.
各単元は，出席および提示される事後課題の提出をもって出席とみなす.
演習やレポート提出の遅刻は原則認めない（欠席扱い）.

《授業時間外学習》
各単元に関連する形態機能論の事前学習を課す.
演習室内における演習の復習を勧める.
演習事後課題の提出を課す.

《備考》
欠席に伴う補習は原則行わない．各自自己学習をした上での質問のみ対応する.

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス，ヘルスアセスメントとは，演習室オリエンテーション :講義
第 2 週	看護における人のとらえ方（1）:講義
第 3 週	腹部のアセスメント（1）: 講義
第 4 週	腹部のアセスメント（2）: 演習
第 5 週	腹部のアセスメント（3）: 演習
第 6 週	胸部のアセスメント（1）: 講義
第 7 週	胸部のアセスメント（2）: 演習
第 8 週	胸部のアセスメント（3）: 演習
第 9 週	筋・骨格系のアセスメント（1）: 講義
第１０週	筋・骨格系のアセスメント（2）: 演習
第１１週	筋・骨格系のアセスメント（3）: 演習
第１２週	健康歴の聴取（1）: 演習
第１３週	健康歴の聴取（2）: 演習
第１４週	健康歴の聴取（3）: 講義
第１５週	まとめ

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	基礎看護学実習Ⅰ				
担当者名	道廣 睦子・小林 廣美				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

学生は、保健・医療・福祉施設で日常生活を送る人々の環境について知り、対話を通してその人達の気持ちや生活状況、健康や看護に対する思いを理解する。そして人々の健康を維持・増進するために、どのような看護活動が行われているかを見学し、専門職としての態度や倫理につて学ぶ。

《授業の到達目標》

学生は、保健・医療・福祉施設において日常生活を送る人々の環境を見学し、その人達がどのようなヘルスニードをもっているかについて学習する。

《テキスト》

看護学概論で指定されている図書

《参考文献》

《成績評価の方法》

実習要項に挿入されている実習評価表をもとづいて行う。知識だけでなく、実習中の態度、出席状況、服装など総合的に評価する。評価表 80%、グループ発表とレポート 10%、個人記録 10%

《授業時間外学習》

事前にオリエンテーションを行います。
事前に実習病棟と病棟の特徴を提示するので、事前学習を行うこと。

《備考》

今回の実習は、教室内で学習した内容を実践の場で見聞し、看護が提供されている場における人間・環境・健康・看護について自分の考え方を明らかにすることを目的にしている。事前に看護学概論で学習した内容を復習し、自分が観る視点をもって、積極的にかつ効果的な実習を行うことを期待する。実習指導には基礎看護学領域の教員の他に、全員の助教・助手であたる。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の詳細は実習要項で提示する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《X群（基礎）》

科 目 名	基礎ゼミ				
担当者名	道廣　睦子・本多　久夫・式　恵美子・坂上　晶代・辻　立世・加藤　知可子・若井　和子・齋藤　智江 段　亜梅・小林　廣美・川上　あずさ・山下　裕紀				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

入学後の環境に適応するために、大学生活を有意義に送り、積極的に学習ができる様に、大学生活の心得、学習方法、看護専門職としての学問追求に必要な文献購読、ノートテーキング、レポートの書き方、グループワークの方法、コミュニケーション、プレゼンテーションの方法と実際等についての基礎的な知識と演習である。

《授業の到達目標》

入学後環境に適応し、学習が自立的にできるための基礎的知識と技術について学ぶ。

1．大学生としての学び、学習方法などについて学ぶ
2．文献購読は、学問追求に必要な文献の読解力を培うために、メイヤロフ著「ケアの本質」を読み、基礎的読解力を獲得する方法を習得する。
3．ノートテーキングでは、実はノートを取るよりも話者の顔を見る方が大切である等、授業の聴き方について述べた後、ノートを取る演習を行う。
4．レポートの書き方では、自分の考えや主張を伝えるために書くことを通じて思考プロセスを理解し、レポートの書き方や提出方法等の基本を習得する。
5．グループワークでは、看護専門職に必要なグループワークの具体的な進め方を学習し、身近な課題を取り上げ、研究的・志向的に問題解決に向けてのグループワークの実際を学ぶ。
6．コミュニケーションの基礎的な方法と考える能力を養い、演習を通して、コミュニケーションについて考える能力を身につける。
7．プレゼンテーションの基礎的な方法を学び、演習を通して、プレゼンテーションの実際を学ぶ。

以上の内容を修得し、大学生活を有意義に送り、積極的に学習ができる様に支援する。

《テキスト》

「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフ著／田村真・向野宜訳　ゆるみ出版　　各担当者から事前に指示があるか印刷物を使用する

《参考文献》

必要な場合は、各担当者から紹介をする。

《成績評価の方法》

出席重視、各担当者がその都度評価したものを参考に、全体で評価する。

《授業時間外学習》

担当者は看護学科の教員全員である(担当教員の箇所に入れてください)。講義と演習のセットになっている内容が多いので講義を欠席すると演習で困るので注意すること。４年間の大学生活に関係する内容であるため、欠席しないこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス・看護学科の紹介、大学生活とは
第 2 週	学習の方法
第 3 週	文献購読①
第 4 週	文献購読②
第 5 週	ノートテーキング①
第 6 週	ノートテーキング②演習
第 7 週	レポートの書き方①
第 8 週	レポートの書き方②演習
第 9 週	グループワークの方法①
第１０週	グループワークの方法①
第１１週	コミュニケーション①
第１２週	コミュニケーション②演習
第１３週	プレゼンテーション①
第１４週	プレゼンテーション②演習
第１５週	まとめ・評価

《教職に関する科目》

科 目 名	教職概論				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

教職の歴史や意義とはどのようなものか、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事とはどのようなものか、教員の身分保障と地位はどのようなものか、求められる教師の資質能力について、教育職員免許状の授与と取得の条件とはなにか、教師の研修、服務とはどのようなものか、等について解説し、その理解をねらいとする。

《授業の到達目標》

教員の資質向上が焦眉の課題である状況のなかで、教育実習をおこなう教職課程履修者は、その責任が以前にも増して重くなったことをよく認識して、教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は将来、教職の道をめざす履修者にとって、教師になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことを目指す。

《テキスト》

『新しい教職概論・教育原理』　広岡義之編著（関西学院大学出版会）2008 年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教職の意義と歴史について
第 3 週	教職員組織について
第 4 週	教師の職務と学校の運営について
第 5 週	現場教師（小・中・高等学校）の実際について
第 6 週	大学における教職への動機づけ
第 7 週	教師の養成と免許について
第 8 週	教師の採用・研修・身分保障について
第 9 週	教育職員免許上の授与と取得の条件
第１０週	求められる教師の資質能力について
第１１週	生涯学習社会と「開かれた学校」への方向転換
第１２週	「学ぶ力」の育成と教師の資質能力
第１３週	教育荒廃と教師の役割
第１４週	教師の悩みと不安
第１５週	本講義のまとめと重要箇所の復習

《教職に関する科目》

科 目 名	教職原理				
担当者名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
本講義では､人間形成の意義と課題を伝統的教育学と実存主義教育との対比を通して教育原理的側面から論じてゆきたい｡そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、様々な教育思想家の主張を援用しつつ、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などにも言及したい。また社会で求められる教育的課題という観点から、平和教育、高齢者教育、家庭教育、環境教育、言語教育等の領域について教育人間学的手法で論じてゆくことにする。

《授業の到達目標》
教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《テキスト》
1.『新しい教育学概論』　広岡 義之著（創言社）2007 年

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	人間形成の意義と課題
第 3 週	伝統的な教育学と実存的教育学の関連性
第 4 週	ソクラテスにおける「助産術」の教育学的意義と課題
第 5 週	プラトンにおける「洞窟の譬喩」の教育学的意義と課題
第 6 週	ブーバーにおける「われーなんじ」論の教育学的意義と課題
第 7 週	フランクルの人間形成論の教育学的意義と課題
第 8 週	「人生の意味」を充足するための教育的意義と課題
第 9 週	実存的空虚の時代の教育的意義と課題
第１０週	言語教育の教育学的意義と課題
第１１週	家庭教育の教育学的意義と課題
第１２週	高齢者教育の教育学的意義と課題
第１３週	環境教育の教育学的意義と課題
第１４週	平和教育の教育学的意義と課題
第１５週	主体的な生き方・あり方教育の意義と課題

《教職に関する科目》

科 目 名	教職制度論				
担当者名	廣岡　義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《授業の到達目標》
わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには，教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより，なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《テキスト》
１.『教育の制度と歴史』　広岡 義之編著　（ミネルヴァ書房）2007 年
２.『教育用語集』(仮題) 広岡　義之編著　（ミネルヴァ書房）2010 年

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 3 週	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史
第 4 週	17・18 世紀の教育制度と教育の歴史
第 5 週	西洋近代公教育制度の発達
第 6 週	19・20 世紀の教育制度と教育の歴史
第 7 週	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向
第 8 週	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史
第 9 週	日本近世・近代の教育制度と教育の歴史
第１０週	国民教育の確立
第１１週	日本近代教育制度の拡充と教育運動
第１２週	戦時体制下の教育制度と教育
第１３週	戦後日本の教育改革および教育制度改革
第１４週	現代日本教育制度と教育行政
第１５週	現代日本の教育改革

《教職に関する科目》

科 目 名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者名	琴浦　志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらいおよび概要》

学校教育の重大問題として、学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられる。これらの背景には、現代を生きる子どもたちのこころの発達のゆがみがあると考えられるが、これらに対して、教師はどのようなことができるだろうか？

人と人との関係を考えていくうえでのヒントは、悩むひとたちと治療者との関係の中で見出された事例の積み重ねによって理論化された、臨床心理学の理論の中に多くあるといっても過言ではない。そこでこの授業では、教師が子どもたちと関係性を構築していくためのスキルとして、カウンセリングの基礎を体験しながら学ぶことをめざす。そして後半は各年代の子どもたちの事例を取り上げるが、各自が子どもたちの問題について自分なりの対処法を見出していけるよう、自分の耳で聴き、感じたことを大切にしていく方法についても学んでほしい。

《授業の到達目標》

１．カウンセリングの基礎を学び、ひとの話を集中して聴くことができるようになること。
２．自分自身のこころに焦点をあてて、そこに耳を傾けられるようになること。
３．近年の学校現場での様々な問題に、自分なりの視点をもてるようになること。

《テキスト》

必要な資料は、適宜配布する。

《参考文献》

１．「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」滝口俊子・田中慶江編　創元社（1400 円＋税）
２．「特別支援教育のための 100 冊」特別教育支援プロジェクトチーム　創元社（1800 円）

《成績評価の方法》

授業への取組み３０％　レポート２０％　授業内容の理解５０％

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリスト（上記の参考文献にとりあげられている 112 冊＋100 冊）を配布する。半期の間にできるだけ多くの本を手にとって読んでいただきたい。そしてこの中から自分の興味のある本を一冊えらんで、手書きで原稿用紙又はレポート用紙 5 枚の感想文を提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第１週	オリエンテーション：教育相談とは何か
第２週	カウンセリングの基礎理論
第３週	聴くということ
第４週	自分でできるカウンセリング
第５週	カウンセリング実習①
第６週	カウンセリング実習②
第７週	前半のまとめ
第８週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題①
第９週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題②
第 10 週	事例研究：乳幼児の事例
第 11 週	事例研究：小学生の事例
第 12 週	事例研究：中学・高校生の事例
第 13 週	家庭との連携のあり方
第 14 週	地域機関との連携のあり方
第 15 週	今後に生かす教育相談

平成 21 年度
(2009 年度)
入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合　　計		124 単位	110 単位	56 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門基礎科目	I群（健康支援と社会保障制度）	社会福祉論	講義		2					2							
			家族関係論	講義		2						2						［菊地 真理］
			精神保健	講義		2			○		2							
			環境衛生学	講義		2			○					2				
			保健福祉行政論	講義	2		◇	□					2					（河野 真）・（芝田 ゆかり）
			公衆衛生学（疫学含）	講義	2		◇	□	○				2					（多田 章夫）
			保健統計学	講義	2		◇	□	○			2						（平井 尊士）
		II群（人体の構造と機能）	基礎生物学	講義		2				2								
			形態機能論	講義	4		◇	□	○	4								
			生化学	講義		2					2							
			栄養学（食品学を含む）	講義		2	◇	□	○		2							
			薬理学	講義	2		◇	□	○			2						［仮家 公夫］
			免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○		2							
		III群（疾病の成立及び回復の促進）	臨床病理病態学 I（内科系）	講義	4		◇	□				4						（大西 隆仁）
			臨床病理病態学 II（外科系）	講義	2		◇	□					2					坪田 紀明
			臨床病理病態学 III（周産期・小児科系）	講義	2		◇	□					2					［久野 克也］
	専門実践科目	IV群（基礎看護学）	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2								
			看護理論	講義	1		◇	□	○		1							
			ヘルスアセスメント	講演	1				○		2							
			看護技術論 I（生活技術援助）	講演	2		◇	□	○			4						小林 廣美
			看護技術論 II（診療技術援助）	講演	2		◇	□	○				4					道廣・小林
			基礎看護学実習 I	実習	1		◇	□	○		3							
			基礎看護学実習 II	実習	2		◇	□	○				6					道廣・小林
			看護教育学	講義	1		◇	□						1				
			看護管理学	講義	1		◇	□						1				
		V群（成人・老年看護学）	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					坂上 晶代
			成人看護援助論 I（生命危機状態にある人）	講義	2		◇	□	○					2				
			成人看護援助論 II（常態の維持・増進が困難な人）	講義	2		◇	□	○					2				
			成人看護学実習 I	実習	3		◇	□							9			
			成人看護学実習 II	実習	3		◇	□							9			
			老年看護学概論	講義	2		◇	□					2					段 亜梅
			老年看護援助論	講義	2		◇	□						2				
			老年看護学実習 I	実習	2		◇	□							6			
			老年看護学実習 II	実習	2		◇	□							6			
		VI群（母性・小児看護学）	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					若井 和子
			母性看護援助論	講演	2		◇	□	○					4				
			母性看護学実習	実習	2		◇	□							2			
			小児看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						川上 あずさ
			小児看護援助論	講演	2		◇	□	○				4					川上 あずさ・池田 友美
			小児看護学実習	実習	2		◇	□	○						6			

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門実践科目	Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）	精神看護学概論	講義	2		◇	□	○				2					加藤･[南川]・眞野
			精神看護援助論	講義	2		◇	□	○					2				
			精神看護学実習	実習	2		◇	□	○						6			
			在宅看護概論	講義	2		◇	□					2					式 恵美子
			在宅看護援助論	講義	2		◇	□						2				
			在宅看護実習	実習	2		◇	□							6			
			地域看護学概論	講義	2			□					2					芝田 ゆかり・[津村 寿子]
			地域看護活動論	講義	2			□						2				
			産業保健論	講義	1			□						1				
			学校保健概論	講義	1			□	○				1					辻 立世
			国際看護学	講義	1			□									1	
			災害看護学	講義	1			□									1	
			地域看護学実習	実習	3			□								9		
	統合科目	Ⅷ群（看護の統合と実践）	看護研究Ⅰ（基礎編）	演習	2									2				
			看護研究Ⅱ（応用編）	演習	2											2		
			リスクマネジメント論	講義		1								1				
			看護の統合と実践実習	実習	2										6			
	関連科目	Ⅸ群（関連）	学校保健活動論	講義		2			○					2				
			学校保健演習	演習		2			○						2			
			養護概説	講義		2			○				2					辻 立世
			健康相談活動の理論と実践	講義		2			○							2		
	基礎科目	Ⅹ群（基礎）	基礎ゼミ	演習	2				○	2								

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
教職に関する科目	教職概論	講義		2			○	2								
	教育原理	講義		2			○	2								
	教育心理学	講義		2			○				2					（大平 曜子）
	教育制度論	講義		2			○		2							
	教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			○				2					[上寺 常和]
	教育方法・技術論	講義		2			○				2					（平井 尊士）
	教育方法論	講義		2			○						2			
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○			2						[上寺 常和]
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○		2							
	総合演習	演習		2			○					2				
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○							5		

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	家族関係論				
担当者名	菊地　真理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では，家族社会学の基本的概念や理論をふまえ，家族関係や家族と社会との関係，その歴史的変化について学習する。そして，私たちが経験しがちなライフイベントを，ライフコースの時間軸に沿って各回で取り上げ解説する。未婚・晩婚化，少子高齢化，離婚・再婚の増加といった動向のなかで現れた，多様な家族経験の事例についても紹介する。授業を通じて，家族にいま何が起こっているのかを理解するだけでなく，これから家族はどうなっていくのか，それを支える社会のあり方についても，考える手がかりを得ることを目指す。授業のテーマに合わせてＶＴＲ資料を視聴することもある。

《授業の到達目標》
・「当たりまえの家族」「ふつうの家族」といったイメージや常識を再考できるようになる。
・家族を対象として展開してきた，家族社会学の基本的概念と研究関心の射程を理解する。
・統計資料や研究事例から，現代家族の動向を読み解くちからを身につける。

《テキスト》
テキストはとくにさだめない。適宜，授業内で配布する。

《参考文献》
野々山久也（編）『論点ハンドブック　家族社会学』世界思想社，2009年
藤見純子・西野理子（編）『現代日本人の家族－NFRJからみたその姿－』有斐閣ブックス，2009年
落合恵美子『21世紀家族へ　－家族の戦後体制の見かた・超えかた－』有斐閣，2004年

《成績評価の方法》
平常点（出席・授業態度・リアクションペーパー）20%，ミニレポート20%，定期試験60%

《授業時間外学習》
・授業後の復習や自己学習のために，参考文献のなかから関連のあるトピックを選び読んでみること。
・日ごろから新聞や情報誌などに触れ，家族に関する記事を積極的に探索すること。

《備考》
私語と遅刻は厳禁（減点の対象となる）。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション：　「多様化」する現代家族を考える
第 2 週	「家族」とは何か？：　「家族」の定義と範囲について
第 3 週	近代家族の成立と展開①：　戦前家族とイエ制度
第 4 週	近代家族の成立と展開②：　高度経済成長のなかの家族
第 5 週	家族のストレスとサポート：　「家族問題」を分析するための視角とアプローチ
第 6 週	未婚化社会と親子関係：　ポスト青年期，パラサイト・シングル
第 7 週	家族儀式の変遷：　結婚式からみる家族の変化
第 8 週	結婚とパートナー関係：　晩婚化，配偶者選択，パートナーシップの多様化
第 9 週	出産と子育て：　少子化，子育てとジェンダー，子育て支援
第１０週	海外の子育て：　子育ての国際比較，海外の子育て支援
第１１週	企業社会と家族：　労働とジェンダー，ワーク・ライフ・バランス
第１２週	離婚とひとり親家庭：　離婚後の家族関係とその諸問題
第１３週	再婚とステップファミリー：　再婚後の家族関係とその諸問題
第１４週	高齢期の家族：　少子高齢化，介護
第１５週	まとめ：　授業を振り返り，これからの家族のゆくえを考える

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	保健福祉行政論				
担当者名	河野　真、芝田　ゆかり				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに，保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深める。
日本の保健福祉行政の今日的動向とシステムに内在する問題点を明らかにし，保健と福祉の連携やサービス供給の多元化，急速に進む少子高齢化への対応を軸に展開されている制度改革の動向について検討する。
地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を学習する。
看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」と、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《授業の到達目標》

社会保障の役割，理念，機能，制度の体系について理解する。
保健医療福祉行政の要点について知識を深める。
国・都道府県・市町村等、行政のしくみとその役割を理解する。
地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を理解する。

《テキスト》

『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻１）』医学書院，2008，および授業中に配布するプリント。
標準保健師講座１『地域看護学概論』編著／奥山則子他　医学書院

《参考文献》

国民衛生の動向　厚生統計協会
その他適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》

定期試験 85%，授業への参加とその成果 15%

《授業時間外学習》

本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり，受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。
講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画	担当者
第 1 週	保健医療福祉行政のめざすもの	芝田
第 2 週	保健医療福祉制度の変遷：公衆衛生の基盤形成	芝田
第 3 週	公衆衛生看護活動に関する法規	芝田
第 4 週	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ	芝田
第 5 週	地域保健行政と保健師活動　(1)地域保健の体系	芝田
第 6 週	地域保健行政と保健師活動　(2)地域単位の保健師活動と連携	芝田
第 7 週	保健医療福祉の計画と評価	芝田
第 8 週	社会保障の理念・日本の保健医療福祉活動の基本方向	河野
第 9 週	社会保険制度（1）社会保険の変遷・医療保険制度	河野
第１０週	社会保険制度（2）介護保険制度	河野
第１１週	社会保険制度（3）年金制度・その他の社会保険制度	河野
第１２週	社会福祉諸法の理念と施策（1）	河野
第１３週	社会福祉諸法の理念と施策（2）	河野
第１４週	保健医療福祉行政論の要点整理（国家試験対策講座）	河野
第１５週	まとめ	

※出張等で変更する場合もありうる。

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	公衆衛生学（疫学含）				
担当者名	多田　章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、環境衛生、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《授業の到達目標》
1　公衆衛生の概念を理解する
2　基本的な保健統計指標について説明できる
3　疫学的な思考や手法を理解する
4　現在の保健衛生行政の実態を説明できる

《テキスト》
「標準保健師講座　別巻２　疫学・保健統計学」　医学書院
「シンプル衛生・公衆衛生学 2010」　鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》
国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《成績評価の方法》
1　定期試験 90%、レポート 10%の割合で評価する
2　10 分以上の遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の 30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う

《授業時間外学習》
1　次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
2　毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
3　健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《備考》
講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	健康の定義、公衆衛生の概念
第 2 週	環境衛生・上水・下水
第 3 週	公害、環境問題
第 4 週	人口統計
第 5 週	保健衛生統計
第 6 週	疫学の基礎
第 7 週	疫学の方法
第 8 週	感染症
第 9 週	地域保健
第１０週	健康増進・生活習慣病対策
第１１週	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）
第１２週	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）
第１３週	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）
第１４週	主要疾患の疫学と予防対策（精神疾患、小児疾患、歯科疾患）
第１５週	医療制度、医療対策・医療の仕組み、保険の種類、医療施設

《Ⅰ群（健康支援と社会保障制度）》

科 目 名	保健統計学				
担当者名	平井　尊士				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本授業は、データ解析で用いる基本的な手法を習得する統計習得コースであり、大きく 2 つの部分より構成する。授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。

①保健医療福祉統計のための記述統計学入門

　標本データの分布を図示し、その特徴を各種の統計量で要約するための手法について学習する。

②保健医療福祉統計のための推測統計学入門

　母集団からの無作為標本によって得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な初歩の考え方について学習する。

※②についても可能な限り触れることとする

※授業計画の授業は順不同とする

《授業の到達目標》

統計理論に基づくデータ解析は、様々な分野において予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本授業では、保健医療福祉統計のためのデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計である。

学生は、各種標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学等について、具体例に基づいて、基礎的内容を学習し、習得できることを目標とする。

尚、新統合 HUMANS 教育研究用システムを積極的に活用した講義と演習を実施する。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

適宜指示し使用します。

《成績評価の方法》

[評価方法]毎回、各授業後に課すレポートや課題

[評価の割合]毎回、各授業後に課すレポートや課題（100 点）

授業欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えません

《授業時間外学習》

毎回配布する資料は学内システム（新統合 HUMANS）に電子ファイルとしておいておきます。毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》

必要に応じ、新統合 HUMANS システムおよび e-Learning システムを積極的に活用します。特に表計算ソフト Excel 等を用いた演習を行うので、その基本的な操作を必ずコンピュータ演習等もあわせ習得することを心がける。特に国家試験（保険師）等でも扱う範囲なので自分から理解できるよう努力をすることが望ましい

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	1.保健医療福祉のための統計学とは何か 統計学とは？、 統計分析のプロセスについて。
第 2 週	2.統計データについて 統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（1）
第 3 週	3.統計データについて 統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（2）
第 4 週	4.1 次元のデータの分析と視覚化（演習 1） データの分布の分析 度数分布表によるデータのまとめ方
第 5 週	5.1 次元のデータの分析と視覚化（演習 2） データの分布の分析 度数分布表によるデータのまとめ方 ヒストグラムの作成
第 6 週	6.1 次元のデータの視覚化（演習 2-1） ローレンツ曲線（集中度や不平等の度合の分析） 棒・円・折れ線グラフによるデータのまとめ方
第 7 週	7.1 次元のデータの要約（演習 2-2） 平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 具体的には、代表値の計算とその性質 平均・中央値・最頻値の計算 更に、代表値の視覚化、代表値の性質：強みと弱点、使い方
第 8 週	8.1 次元のデータの要約（演習 1-1） 平均値と標準偏差によるデータのまとめ方
第 9 週	9.1 次元のデータの要約（演習 1-2） 平均値と標準偏差によるデータのまとめ方 具体的には、代表値の計算とその性質 平均・中央値・最頻値の計算 更に、代表値の視覚化、代表値の性質：強みと弱点、使い方
第１０週	10. 1 次元のデータの要約（演習 2-1） 分散と標準偏差の計算
第１１週	11. 1 次元のデータの要約（演習 2-2） さまざまな散らばり具合の尺度とその性質 分散と標準偏差の計算 標準偏差の性質、偏差値とは何か？
第１２週	12.2 次元のデータの分析 データ間の関係の分析
第１３週	13.2 次元のデータの視覚化(演習 1) 散布図の作成（連続データ）
第１４週	14.2 次元のデータの視覚化(演習 2) 散布図の作成（連続データ） クロス集計表（分割表）の作成とグラフ化（質的データ）
第１５週	15.まとめ：データ間の関係の度合いを数字あるいは式で表す 相関係数の計算とその性質 散布図・相関係数によるデータのまとめ方 回帰直線によるデータのまとめ方 推定と仮説検定（講義の進み具合によりこの項を割愛する場合がある。）

《Ⅱ群（人体の構造と機能）》

科 目 名	薬理学				
担当者名	仮家　公夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

薬理学では、看護師や保健師が遭遇する医薬品と患者の病態との相互作用についての知識を養い、適切な医薬品の使用の大切さ学んで欲しい。医薬品は化学物質であり、疾患の治癒や予防に期待される作用と不必要な副作用や生命に関わる有害作用を示すことがある。もちろん期待される作用に付随している副作用もあるが、副作用や有害作用は適切な使用・適応を誤ったことにより生じる。これらは医療過誤として報道されていることは、周知の事である。

限られた時間であるが、医薬品の体内での動態や作用発現機序について先ず総論を修得して欲しい。各論では全ての医薬品を解説する事は不可能であり、免疫系・抗アレルギー・抗炎症薬、抗感染症薬、抗がん薬、末梢組織・器官性疾患治療薬について講述する。

《授業の到達目標》

医薬品の作用の基本的原理を理解し、主要な疾患治療薬の作用機序、薬効と副作用などについて説明出来る。
また、医薬品の適正使用の重要さを認識する。

《テキスト》

『系統看護学講座　専門基礎５　薬理学』　大鹿・吉岡　ほか著

《参考文献》

『疾患別薬理学　第４版』　赤池昭紀ほか著　(2007：7刷 廣川書店)
『シンプル薬理学』　野村・石川　編　(2009年：南江堂)
『今日の治療薬2010』　浦部・島田・川合　編　(2010：　南江堂)

《成績評価の方法》

定期試験評価　80%、平常評価20%(レポート、出席状況など)

《授業時間外学習》

復習による自己学習は当然であるが、講義の進行に応じて課題を提示する。

《備考》

学習は諸君の自己責任であり、理解が困難な事項などは積極的に質問をしてほしい。
座席指定するが、私語や携帯電話を楽しむ学生、また授業中の出入や飲食をしたい学生は受講しないでほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	薬理学総論（1） 薬物治療の目ざすもの、薬物作用の基本
第 2 週	薬理学総論（2） 薬物動態の基本
第 3 週	薬理学総論（3） 薬効に影響を与える因子
第 4 週	抗感染症薬（1）
第 5 週	抗感染症薬（2）
第 6 週	抗がん薬
第 7 週	免疫治療薬
第 8 週	抗アレルギー薬、抗炎症薬
第 9 週	物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬
第１０週	心血管・血液に作用する薬物（1） 血液凝固系疾患など
第１１週	心血管・血液に作用する薬物（2） 高血圧症など
第１２週	心血管・血液に作用する薬物（3） 心不全・不整脈など
第１３週	呼吸器系に作用する薬物 カゼ症候群、気管支喘息など
第１４週	脳神経系に作用する薬物（1） 不眠症、うつ、統合失調など
第１５週	脳神経系に作用する薬物（2） パーキンソン病、痙性マヒなど

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科 目 名	臨床病理病態学Ⅰ（内科系）				
担当者名	大西　隆仁				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》
傷病者に対して適切な看護を行うために、それぞれの疾患についての病理病態を知ることが必要である。疾患の病理病態を理解することは、正常な人体の構造、機能や組織と疾患との違いを理解することである。この科目では、看護士に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することが大事である。

《授業の到達目標》
解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について学ぶ。このときに，どのような症状・所見が現れるのか，それはどのような仕組みで起こるのかを理解し，さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として取得する必要がある。この科目では、看護士に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することを目標とする。

《テキスト》
適宜、資料やプリントを配布する。内科学に関する教科書を一冊持つことが望ましい。

《参考文献》
コアテキスト２－４　疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論１,２ 医学書院
病態生理Ⅰ　症候編 臨床看護セレクション01 金井弘一編，へるす出版
内科学　コメディカルのための専門基礎テキスト，北村諭編，中外医学社
よくわかる内科，福山裕三・高杉佑一著，金原出版
わかりやすい内科学，井村裕夫編，文光堂

《成績評価の方法》
レポートと筆記試験で成績評価を行う。

《授業時間外学習》
テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと。レポートを作成し期限内に提出すること。

《備考》
お茶と水の摂取のみ許可する。特別に許可した場合を除き、講義中の飲食（ガム、飴を含む）ならびに携帯電話の使用を禁止する。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	内科学総論(1)
第 2 週	内科学総論(2)
第 3 週	内分泌疾患(1)
第 4 週	内分泌疾患(2)
第 5 週	膠原病・リウマチ性疾患(1)
第 6 週	膠原病・リウマチ性疾患(2)
第 7 週	アレルギー性疾患・免疫不全症(1)
第 8 週	アレルギー性疾患・免疫不全症(2)
第 9 週	呼吸器疾患(1)
第１０週	呼吸器疾患(2)
第１１週	呼吸器疾患(3)
第１２週	循環器疾患(1)
第１３週	循環器疾患(2)
第１４週	循環器疾患(3)
第１５週	まとめ

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科 目 名	臨床病理病態学Ⅰ（内科系）				
担当者名	大西　隆仁				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》
傷病者に対して適切な看護を行うために、それぞれの疾患についての病理病態を知ることが必要である。疾患の病理病態を理解することは、正常な人体の構造、機能や組織と疾患との違いを理解することである。この科目では、看護士に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することが大事である。

《授業の到達目標》
解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について学ぶ。このときに，どのような症状・所見が現れるのか，それはどのような仕組みで起こるのかを理解し，さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として取得する必要がある。この科目では、看護士に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することを目標とする。

《テキスト》
適宜、資料やプリントを配布する。内科学に関する教科書を一冊持つことが望ましい。

《参考文献》
コアテキスト２－４　疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論１,２ 医学書院
病態生理Ⅰ　症候編 臨床看護セレクション01 金井弘一編，へるす出版
内科学　コメディカルのための専門基礎テキスト，北村諭編，中外医学社
よくわかる内科，福山裕三・高杉佑一著，金原出版
わかりやすい内科学，井村裕夫編，文光堂

《成績評価の方法》
レポートと筆記試験で成績評価を行う。

《授業時間外学習》
テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと。レポートを作成し期限内に提出すること。

《備考》
お茶と水の摂取のみ許可する。特別に許可した場合を除き、講義中の飲食（ガム、飴を含む）ならびに携帯電話の使用を禁止する。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	腎・尿路疾患(1)
第 2 週	腎・尿路疾患(2)
第 3 週	消化器・腹膜疾患(1)
第 4 週	消化器・腹膜疾患(2)
第 5 週	肝・胆道・膵疾患(1)
第 6 週	肝・胆道・膵疾患(2)
第 7 週	感染性疾患(1)
第 8 週	感染性疾患(2)
第 9 週	代謝・栄養疾患(1)
第１０週	代謝・栄養疾患(2)
第１１週	血液・造血器疾患(1)
第１２週	血液・造血器疾患(2)
第１３週	神経疾患(1)
第１４週	神経疾患(2)
第１５週	まとめ

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科 目 名	臨床病理病態学Ⅱ（外科系）				
担当者名	坪田　紀明				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本授業では病態学のうちの外科に関わる事項を臨床に即して学習し、広く外科看護の基礎知識を養う．病理の観点から見た１年次の復習もかねている．１年次の勉強不足を補う最後のチャンスでもある．

《授業の到達目標》

解剖学、生理学の学習即ち，正常状態の学習を終え、いよいよ人体の異常状態、即ち病態学の学習に入る．この学科で学んだことを実習に活かす．病態が分かってこそプロの看護である．プロである皆さんの基礎知識が素人の患者の知識に劣るわけにはいかない．

《テキスト》

カラーで学べる病理学 渡辺 照男

《参考文献》

臨床病理・病態学 メディカ出版

《成績評価の方法》

1）ペーパーテスト 100%．下記を参照．出席状況等はあくまで参考資料である．

《授業時間外学習》

上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む．時間のあるときに１７号館を訪れ資料室の人体模型に親しむ．

《備考》

最も大切なことは授業中の集中力．各人の様子を教壇から眺めておれば集中しているか否か、一目瞭然．1，２年生の間に習う基礎必修科目を疎かにすれば 3，４年生の実習の効率低下に結びつく．基礎学力の不足に気が付いたときは既に遅く，国家試験の結果に重大な影響を及ぼしかねない．これまでの先輩の体験がこれを物語るが，悲しいかな，1，２年生の時に気が付く人は少ない．集中力こそが国家試験の合否に直結する．集中力こそが実りある人生を拓く．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	総論１病理学緒論
第 2 週	２再生と修復
第 3 週	３炎症と免疫、アレルギー、感染
第 4 週	４循環障害
第 5 週	５代謝異常、老化
第 6 週	６先天異常
第 7 週	７腫瘍、生命の危機
第 8 週	各論１循環器系
第 9 週	２呼吸器系
第１０週	３消火器系
第１１週	４内分泌系
第１２週	５造血系、腎泌尿器系
第１３週	６生殖器系、脳神経系
第１４週	７運動系、感覚器系、皮膚
第１５週	病理学総合

《Ⅲ群（疾病の成立及び回復の促進）》

科 目 名	臨床病理病態学Ⅲ（周産期・小児科系）				
担当者名	久野　克也				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
わが国の周産期・小児医療は先端科学技術の応用により目ざましい進歩を遂げてきた。したがって、これらの医療現場では、看護領域においても高度な知識と適切な医療技術が要求される。本講義では、将来大卒看護師として高度な小児医療にも対応できることを目標に充実した内容としたい。胎児、新生児を含む成長過程にある患児の発達生理、病理学的知識に基づいて、病態を明らかにしそれぞれにケア、治療を解説する。

《授業の到達目標》
看護師、助産師国家試験に対応できる知識の習得を基本的な必要条件とする。
小児看護のスペシャリストを志す学生にも不足のないレベルを目標とする。

《テキスト》
1.「看護のための最新医療講座　14. 新生児・小児科疾患」（中山書店）図書館所蔵
2.「系統看護学講座　25　母性看護学各論（2）」（医学書院）

《参考文献》
『新女性医学大系　25　正常分娩』（中山書店）
『新女性医学大系　31　新生児とその異常』（中山書店）
『新女性医学大系　26　異常分娩』（中山書店）

《成績評価の方法》
学期末に筆記試験で評価する。（全評価の 90%）
適時、講義終了時にまとめの小テストを行う。

《授業時間外学習》
講義中に特に重要なキーワードを指示するので、終了後復習し 100 字以内にまとめておく。

《備考》
小児の病態を理解するためには、発生学・発達生理学の基礎知識が必須です。病態学ではそれらをすべて解説する時間はありませんので、復習が欠かせません。内容が豊富ですので、可能な限りレジメを配布しますが、十分自習を追加して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	周産期における母児相関とその障害（1） 周産期の母体生理とその障害 子宮内胎児の発育とその障害
第 2 週	周産期における母児相関とその障害（2） 周産期の母体管理と病態
第 3 週	胎児・新生児の発達生理とその障害（1） 循環・呼吸系の発育とその障害 消化器系の発育とその障害 水・電解質、体温調節の発達とその障害
第 4 週	胎児・新生児の発達生理とその障害（2） 栄養代謝の発育とその障害
第 5 週	新生児・小児の病態に対する治療（1） 診察法 体温異常 呼吸障害と呼吸管理
第 6 週	新生児・小児の病態に対する治療（2） 神経系・筋障害
第 7 週	新生児・小児の病態に対する治療（3） 腹部消化器障害とその対応 黄疸とその対応 低血糖とその対応
第 8 週	新生児・小児の病態に対する治療（4） 代謝・内分泌異常とその対応
第 9 週	低出生体重児の病態とケアー
第１０週	小児の呼吸器疾患とそのケアー
第１１週	小児の心疾患とそのケアー
第１２週	小児の消化器疾患とそのケアー
第１３週	小児の感染症とそのケアー
第１４週	小児の血液疾患と免疫不全のケアー
第１５週	小児の外傷、救急疾患

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	看護技術論Ⅰ（生活技術援助）				
担当者名	小林　廣美				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

学生は、看護の対象者に看護を提供するために必要な看護行為に共通する援助技術と健康的な日常生活行動を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。学生は、看護実践に必要な基本的看護技術全般について学習する。詳細な目標はその都度提示する。

《授業の到達目標》

１．看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な知識がわかる。
２．看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な技術が実施できる。
３．看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《テキスト》

系統的看護学基礎講座⑵「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」,藤崎郁,(医学書院)

《参考文献》

必要時その都度提示する。

《成績評価の方法》

講義や演習への出席、グループやクラスにおける討議の参加の程度や、試験、レポートなどによって総合的に評価する。試験８０％、レポート１０％、演習への能動的態度１０％。

《授業時間外学習》

１．授業に積極的に参加するには、授業計画にそって教科書や文献を読んだり、提示図書による事前学習をする。
２．授業終了すれば必ず復習をし、不明な点があれば、自分で文献で調べたり、教員に質問するなど能動的な態度で学習する。
３．演習後には何度も練習を繰り返し技術を身につける。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス、技術論 ボディメカニクス、環境調整技術
第 2 週	ベットメーキング(講義・演習)
第 3 週	ベットメーキング・リネン交換(講義・演習)
第 4 週	バイタルサイン(講義)
第 5 週	バイタルサイン(講義・演習)
第 6 週	バイタルサイン(講義・演習)
第 7 週	安全を守る技術(講義・演習)
第 8 週	安全を守る技術(演習)
第 9 週	身体の移動に関する援助技術(講義・演習)
第１０週	栄養や食事に関する援助技術(講義・演習)
第１１週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第１２週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第１３週	身体の清潔と衣生活に関する援助技術(講義・演習)
第１４週	排泄に関する援助技術(講義・演習)
第１５週	援助技術総まとめ

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	看護技術論Ⅱ（診療技術援助）				
担当者名	道廣 睦子・小林　廣美				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
「治療に伴う看護の役割を理解すること」をねらいとし，「薬物療法と検査における基本的な看護の方法」を習得する．

《授業の到達目標》
受講生の準備性にあわせて設定する．

《テキスト》
開講前に掲示する．

《参考文献》
各単元毎に提示する．

《成績評価の方法》
筆記試験 50%，実技試験 30%，演習内容 20%で評価する．
筆記試験で総得点の 6 割に満たない者対象の再試験を実施しない．
各単元は，出席および提示される事後課題の提出をもって出席とみなす．
演習やレポート提出の遅刻は原則認めない（欠席扱い）．

《授業時間外学習》
各単元に関連する既習単位の事前学習を課す．
演習室内における演習に復習を勧める．
演習事後課題の提出を課す．

《備考》
欠席に伴う補習は原則行わない．各自自己学習をした上での質問のみ対応する．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	薬物療法に伴う看護の方法（1）：与薬法，内服・外用
第 2 週	薬物療法に伴う看護の方法（2）：注射の準備
第 3 週	薬物療法に伴う看護の方法（3）：筋肉内注射，皮下注射
第 4 週	実技試験（1）
第 5 週	検査に伴う看護の方法（1）：検体採取・検尿，採血の準備
第 6 週	検査に伴う看護の方法（2）：静脈血採血・血沈
第 7 週	実技試験（2）
第 8 週	気道を浄化し酸素化を促す看護の方法：酸素吸入，吸引
第 9 週	統合的に行う技術：酸素吸入中に移送，点滴中の更衣
第１０週	実技試験（3）
第１１週	看護技術のまとめ（1）：ナーシングケアプラン
第１２週	看護技術のまとめ（2）：ナーシングケアプラン
第１３週	看護技術のまとめ（3）：実施と評価
第１４週	看護技術のまとめ（4）：発表
第１５週	まとめ

《Ⅳ群（基礎看護学）》

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ				
担当者名	道廣　睦子・小林　廣美				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。又、看護過程の展開を通じて、対象者に応じた援助的関係を形成・発展させる能力を身に付けると共に、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。

《授業の到達目標》

1）対象者との関わりを通じて、人間関係の成立・発展を図ることができる。
2）対象者に応じた看護過程が展開できる（情報収集・アセスメント、看護問題、計画、実施、評価）。
3）看護学生として倫理的に行動することができる。
4）自己の看護実践を言語化し評価することができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考文献および講義中に配布した資料。

《参考文献》

《成績評価の方法》

評価は、学生が自己の実習目標達成度を認識し、さらに担当教員による客観的な評価から実習の成果と今後の課題を確認する機会とする。具体的な実習評価は、実習目標達成度、学習態度、レポート、出席点の項目で基礎看護学実習Ⅱ評価表を用いて評価する。但し60点以上を合格とする。

《授業時間外学習》

事前に実習病棟と病棟の特徴を提示するので、事前学習を行うこと。特に看護過程展開の方法をしっかり身につけるよう学習すること。

《備考》

本実習では、初めて健康障害を持つ人の看護を行うので、常に看護の対象者の安全・安楽と、対象者の意思や権利を尊重した関わりを持つことに注意を払うこと。又、実習現場では、積極的に学ぶ姿勢を示し、学生として謙虚な態度で実習を行うこと。さらに実習前･中における自己学習をしっかり行い、対象の病気や治療の理解、対象を全人的に理解できるように努力すること。看護ケアを実施する場合は、必ず担当教員あるいは実習指導者と共に実施する。看護実践に提供する技術は、原理原則を踏まえ、根拠に基づいてできるように、実習室にて十分練習を行い、実習に望むこと。実習指導には、基礎看護学領域の教員の他に助教･助手が入る。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	内容の詳細は実習要項で提示する
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ｖ群（成人・老年看護学)》

科 目 名	成人看護学概論				
担当者名	坂上　晶代				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
家族・社会の成員である成人、そしてその家族の健康・健康課題を考え、看護の実践に必要な理論を学んでいきます。基礎看護学領域で習得した知識・技術を活用し、自発的・積極的に学ぶ姿勢が求められます。

《授業の到達目標》
１．成人期にある人の健康と健康課題について理解する。
２．成人看護の実践に必要な理論を学習する。
３．成人看護の実践を学習する。

《テキスト》
成人看護学概論(第２版)　大西和子、岡部聰子編(Nouvelle Hirokawa, 東京) 2009.

《参考文献》
適宜指示します

《成績評価の方法》
定期試験 60%、単元ごとのミニレポート 20%、グループワークへの貢献度 20%
出席日数が全体の 2/3 に満たない場合は単位認定を行いません。
ミニレポートの提出をもって出席とみなします。

《授業時間外学習》
自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて単元ごとに学習内容を整理すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	成人看護学の概念と特性
第 2 週	成人期にある人の健康と健康課題
第 3 週	成人看護における倫理と看護者の役割
第 4 週	成人看護に使用される理論・モデル 1(グループワーク)
第 5 週	成人看護に使用される理論・モデル 2(グループワーク)
第 6 週	成人看護に使用される理論・モデル 3(グループワーク)
第 7 週	成人看護に使用される理論・モデル 4(発表)
第 8 週	成人看護に使用される理論・モデル 5(発表)
第 9 週	成人看護に使用される理論・モデル 6(まとめ)
第１０週	成人期の特徴をとらえた看護過程
第１１週	成人看護実践の方法
第１２週	継続看護と健康教育
第１３週	社会資源と政策、ソーシャルポート
第１４週	死にまつわる文化・倫理的課題
第１５週	総括およびテスト

《Ｖ群（成人・老年看護学)》

科 目 名	老年看護学概論				
担当者名	段　亜梅				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
高齢者を生物学的、社会学的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれをとりまく社会の視点で高齢者の多様性を全人的に理解し、歳を重ねること（エイジング〈加齢〉）に伴う生活の変化や、老年者に特有な症候・疾患・障害をもつ高齢者とその家族の望ましい健康生活を支える看護を実践していくための老年看護の基本的概念・理論・技法について習得する。
(具体的な内容は授業計画に示す通りである)

《授業の到達目標》
１）　看護学における老年看護学の位置づけについて理解し述べることができる。
２）　老年期にある人々の加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響について習得できる。
３）　高齢者とその家族の生活の質を確保するために必要な保健・医療・福祉制度について理解し、望ましい高齢者支援のあり方について考えることができる。
４）　老年看護の機能と役割について述べることができる。

《テキスト》
系統看護学講座「老年看護学」中島紀恵子他編（医学書院）

《参考文献》
新体系看護学「老年看護概論・老年保健」　鎌田ケイ子他（メヂカルフレンド社）(最新版)
「国民衛生の動向」　厚生統計協会　(最新版)
「高齢社会白書」　内閣府(最新版)
「厚生労働白書」　厚生労働省（最新版)
その他適宜に提示する。

《成績評価の方法》
定期試験 70%、レポート 20%、講義演習への参加態度・出席率 10%等によって総合に評価する。
ただし、講義や演習の出席率が 3 分の 2 以下のものは単位習得が不可能である。

《授業時間外学習》
学習の効果をよくするために講義や演習の前には、関連科目を予習しておき、講義や演習の後にも必ず復習すること。

《備考》
講義や演習の進行によって授業計画の変更があり得る．（なるべく早めに事前提示や説明する）

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業展開の概要。　老年観の変遷
第 2 週	ライフステージにおける老年期の位置づけ 老年期における発達課題
第 3 週	加齢に伴う変化の特徴　（課題演習：万歩計を着用して）
第 4 週	加齢に伴う身体的機能の変化
第 5 週	加齢に伴う精神的機能の変化
第 6 週	高齢者の生活障害模擬体験：演習
第 7 週	加齢過程に対する社会文化的影響
第 8 週	高齢者を介護する家族への支援
第 9 週	高齢社会における社会保障　①保健医療制度について
第１０週	高齢社会における社会保障　②介護保険制度について
第１１週	高齢者の人権と倫理問題
第１２週	「万歩計」演習の発表と評価
第１３週	老年看護の理念・目標・原則
第１４週	老年看護の機能と役割
第１５週	特別講演：現役高齢者の体験談

《Ⅵ群（母性・小児看護学）》

科 目 名	母性看護学概論				
担当者名	若井　和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的特性を学ぶことにより，なぜ，母性看護が必要とされるのか，その意義について考えます。さらに母性看護の役割をふまえ，看護の実践者として，基礎的能力を養うことをねらいとします。

《授業の到達目標》

○ 女性のライフステージおよび新生児の生理的変化について学習し，対象の各期における必要な看護を説明することができる。
○ 現代社会における女性の社会的状況，生活，家族に関する事象を多角的に考察することができる。

《テキスト》

「ナーシング・グラフィカ 30　母性看護実践の基本」横尾京子他　メディカ出版

《参考文献》

「系統看護学講座　母性看護学概論」石井邦子他　医学書院
「新体系看護学 32　母性看護概論・母性保健」　新道幸恵他　メヂカルフレンド
「新体系看護学 33　妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護」　新道幸恵他　メヂカルフレンド
「ウイメンズヘルスナーシング　ウイメンズヘルスナーシング概論　女性の健康と看護」高橋真理他　ヌーヴェルヒロカワ
「ウイメンズヘルスナーシング　女性のライフサイクルとナーシング　女性の生涯発達と看護」高橋真理他　ヌーヴェルヒロカワ

《成績評価の方法》

評価方法は，定期試験により行います。

《授業時間外学習》

生理的な身体機能の変化を理解するために，講義中に，DVD，文献を紹介しますので，自己学習に活用してください。
受講後，必ずテキストを読んで復習してください。さらに国家試験問題集を活用して自己の学習成果を確認するとともに，わからない箇所について調べ，理解を深めてください。

《備考》

学習した単元に該当するテキストの部分を必ず読んでノートの整理を行って下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	母性看護の概念：母性とは，母性看護学の意義と役割，人口動態と母子保健
第 2 週	母性看護の特性：女性を取り巻く社会環境，リプリダクティブ・ヘルス/ライツ，ヘルスプロモーション
第 3 週	母性看護職者の法的責任と倫理①：看護者の法的責任，母性看護における法的倫理的責任
第 4 週	母性看護職者の法的責任と倫理②：母性看護における倫理的配慮，母性看護における安全・事故予防
第 5 週	女性のライフステージとヘルスケア①：ヒトの発生，性周期と生殖機能，家族計画
第 6 週	女性のライフステージとヘルスケア②： 思春期女性の健康と課題
第 7 週	女性のライフステージとヘルスケア③： 周産期における母子の健康と課題
第 8 週	女性のライフステージとヘルスケア④：妊娠期の健康と課題（妊娠中の生理的変化，妊婦の特性）
第 9 週	女性のライフステージとヘルスケア⑤：妊娠期の健康と課題（出産前の保健指導，妊婦の生活と基本的ニーズ）
第１０週	女性のライフステージとヘルスケア⑥：分娩期の健康と課題（分娩の３要素と分娩の経過）
第１１週	女性のライフステージとヘルスケア⑦：分娩期の健康と課題（産婦の特性，産婦の生活と基本的ニーズ）
第１２週	女性のライフステージとヘルスケア⑧：産褥期の健康と課題（産褥期の生理的変化，産褥期の基本的ニーズ）
第１３週	女性のライフステージとヘルスケア⑨：新生児期の健康と課題（正常新生児の生理的変化，新生児の特性）
第１４週	女性のライフステージとヘルスケア⑩：更年期，老年期にある女性の健康と課題
第１５週	女性のライフステージとヘルスケア⑪：虐待，性暴力を受けた子どもと女性の健康と課題

《Ⅵ群（母性・小児看護学）》

科 目 名	小児看護学概論				
担当者名	川上　あずさ				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
小児看護は､小児と家族の発達段階を理解し､小児と家族がもっている力が最大限に発揮できるよう援助を行っていくことが大切です。小児看護学概論では、そのための基礎知識を学びます。

《授業の到達目標》
小児と家族の発達段階を理解し、看護を実践するための基礎的知識を習得する。

《テキスト》
小児看護学１　小児看護学概論　医学書院

《参考文献》
小児の発達と看護　メディカ出版
小児看護学概論　南江堂

《成績評価の方法》
定期試験 90%、レポート等の提出物 10%で評価します。

《授業時間外学習》
授業計画で示された内容についての予習・復習をしてください。

《備考》
日常で出会う子どもや、子どもを取り巻く環境、情報についての関心を高めてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	小児看護とは
第 2 週	小児看護の変遷と課題 子どもの権利と小児看護における倫理
第 3 週	小児看護で用いられる理論
第 4 週	子どもと家族
第 5 週	子どもの成長・発達の原則 発達の評価
第 6 週	乳児期の子どもの成長・発達と看護１
第 7 週	乳児期の子どもの成長・発達と看護２
第 8 週	幼児期の子どもの成長・発達と看護１
第 9 週	幼児期の子どもの成長・発達と看護２
第１０週	幼児期の子どもの成長・発達と看護３
第１１週	学童期の子どもの成長・発達と看護１
第１２週	学童期の子どもの成長・発達と看護２
第１３週	思春期の子どもの成長・発達と看護
第１４週	現代の子どもがおかれている状況や問題
第１５週	子どもと家族の健康を支える社会制度

《Ⅵ群（母性・小児看護学）》

科 目 名	小児看護援助論				
担当者名	川上　あずさ・池田　友美				
授業方法	講演	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
小児看護援助論は、小児看護学概論で理解した小児と家族の発達段階をふまえ、さまざまな健康状態やレベルにある小児と家族への援助について学びます。

《授業の到達目標》
さまざまな健康状態やレベルにある小児と家族の看護を行うための、知識や思考過程、技術を習得する。

《テキスト》
小児看護学１　小児看護学概論
小児看護学２　小児臨床看護各論

《参考文献》
小児看護技術　メディカ出版
こどものフィジカルアセスメント　金原出版
小児看護技術　南江堂

《成績評価の方法》
定期試験 80%、課題レポート・演習レポート 20%で評価します。

《授業時間外学習》
効果的な演習ができるよう、演習内容の事前学習をして臨んでください。

《備考》
演習が多くなります。援助者としての自覚をもった学習姿勢が大切です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	子どもが病気になるということ 入院における小児と家族の看護
第 2 週	検査や処置を受ける小児と家族への看護 演習
第 3 週	症状別にみる小児の看護１
第 4 週	症状別にみる小児の看護２ 事例検討
第 5 週	小児のフィジカルアセスメント 演習
第 6 週	救急における小児と家族への援助
第 7 週	急性期にある小児と家族への援助 事例検討
第 8 週	急性期にある小児と家族への援助 演習
第 9 週	手術を受ける小児と家族への援助 事例検討
第１０週	慢性期にある小児と家族への援助 事例検討
第１１週	慢性期にある小児と家族への援助 演習
第１２週	在宅で療養する小児と家族への援助 事例検討
第１３週	障害のある小児と家族への援助 事例検討
第１４週	終末期にある小児と家族への援助 事例検討
第１５週	これからの小児看護の方向性

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科 目 名	精神看護学概論				
担当者名	加藤　知可子・南川　康博・眞野 祥子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

精神看護の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人々を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況及びそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健全な精神発達への援助を思考するために必要な知識を教授する。

《授業の到達目標》

心の健康を保持･増進するために必要な基礎知識を修得し、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。また、心の障害を持つ対象者への看護について学ぶ。

《テキスト》

『精神看護学Ⅰ精神保健学』第４版　　吉松和哉他編　ヌーヴェルヒロカワ
『精神看護学Ⅱ精神臨床看護学』第４版　川野雅資編　　ヌーヴェルヒロカワ

《参考文献》

『精神看護学ノート』第２版　武井麻子　医学書院
『精神医療看護の歩み』　　宮内　充　勁草書房
　その他、講義の中でも紹介します。

《成績評価の方法》

試験 70%、平常評価 30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度など）により総合的に評価する。

《授業時間外学習》

精神看護学概論に関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	精神保健･医療･看護の歴史
第 2 週	精神保健看護の概念
第 3 週	精神科医療に関する法律　精神保健福祉法　障害者自立支援法　医療観察法
第 4 週	精神の発達と健康
第 5 週	人格の成熟と人間関係の発展
第 6 週	ストレスと危機
第 7 週	精神神経医学各論１　統合失調症
第 8 週	精神神経医学各論２　感情障害
第 9 週	精神神経医学各論３　神経症性障害
第１０週	精神神経医学各論４　癲癇　器質性障害
第１１週	精神神経医学各論５　物質障害　人格障害
第１２週	精神神経医学各論６　リエゾン精神医学
第１３週	患者･家族のこころ
第１４週	看護という職業
第１５週	学習のまとめと試験

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科 目 名	在宅看護概論				
担当者名	式　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
在宅における看護は、療養者の生活を健康課題の面から支援する役割を持っている。対象は、健康課題については慢性疾患を抱えながら療養生活をしている人や障がいを持って暮らしている人などさまざまな価値観を持って地域で生きる人々であり、対象には家族を含めて一体として考える。対象を支援するために在宅ケアシステムとして介護保険制度やチームケア体制および社会資源について理解する。

《授業の到達目標》
１．在宅看護の歴史と背景について理解する
２．在宅における療養者とその家族について理解する
３．在宅看護に関連する法規について理解する
４．在宅看護の特長について理解する
５．在宅看護における倫理的課題

《テキスト》
編集：杉本正子，真船拓子（2010）「在宅看護論」第５版，ヌーベルヒロカワ
監修：樋口キエ子　　編著：樋口キエ子，式惠美子（2010）「退院支援から在宅ケアへ」筒井書房

《参考文献》
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅰ　概論編
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅱ　実践編

《成績評価の方法》
定期試験による評価（80%）
出席状況と積極性（10%）課題レポート提出状況（10%）

《授業時間外学習》
介護保険制度を利用している人へのインタビュー
訪問看護師の活動記録の書物（文献）の読書レポート
道路や建造物のバリアフリー状況を視察する
その他随時提示する

《備考》
レポートには、文献を使ってください
レポート提出は、期日を守って下さい

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	公衆衛生看護，地域看護，在宅看護，在宅看護関連用語
第 2 週	在宅看護の歴史，療養生活を支援する看護職
第 3 週	在宅看護を取り巻く社会状況
第 4 週	在宅看護を巡る社会政策
第 5 週	医療機関からの退院を巡る状況
第 6 週	在宅療養者と家族
第 7 週	在宅療養者と家族
第 8 週	在宅看護を可能にする要件
第 9 週	介護保険制度
第１０週	介護保険制度
第１１週	在宅看護の基礎知識
第１２週	在宅看護の展開
第１３週	関係職種と社会資源
第１４週	在宅療養者の権利保障，倫理的課題
第１５週	諸外国の状況

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科 目 名	地域看護学概論				
担当者名	芝田　ゆかり・津村　寿子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

潜在･顕在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の理念(原理･原則)を教授する。地域住民全体を捉える視点および予防的視点からの健康水準の向上をめざす地域看護の概念を学習する。

《授業の到達目標》

地域で生活する個人・家族・集団全てを対象とし、健康レベルや地域の特性に応じた健康の保持増進や疾病発生及び悪化の予防を支援するための看護の基礎を理解する。

《テキスト》

標準保健師講座１「地域看護学概論」編著／中村裕美子他　医学書院
国民衛生の動向　厚生統計協会

《参考文献》

三訂地域看護学　編著／津村智恵子他　中央法規
その他適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等（15%）で総合評価する。

《授業時間外学習》

予習と復習を行い、理解に努めること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	地域看護・地域看護学について
第 2 週	地域看護の理念と活動分野
第 3 週	対象としての個人・家族・集団・組織
第 4 週	地域看護活動の歴史
第 5 週	地域看護に関する法規
第 6 週	地域の健康課題と地域看護の役割
第 7 週	健康な地域づくり（1）－プライマリヘルスケア
第 8 週	健康な地域づくり（2）－ヘルスプロモーション
第 9 週	地域看護で用いる理論
第１０週	家族看護論
第１１週	地区活動論
第１２週	対象別保健活動概略（母子・成人・高齢者保健）
第１３週	疾病対策（感染症・精神・障がい者・難病・歯科保健、災害看護）
第１４週	地域看護管理機能と役割
第１５週	まとめ、　テスト

《Ⅶ群（精神・在宅・地域看護学）》

科 目 名	学校保健概論				
担当者名	辻　立世				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
地域の中の学校保健として児童生徒の健康の実態を把握し、現代的健康課題に対応するための健康教育や看護能力について学び、生涯健康で生きる力を養う。学校保健推進の中核的役割を果たす養護教諭の役割、職務の特質と保健室の機能を理解する。慢性疾患や障害を持つ児童生徒の理解、感染症の予防、児童虐待防止、学校事故対策、学校救急看護の現状について学習する。地域保健と学校保健の役割と連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》
看護師･保健師等の看護職として学校保健を担う人々を理解し、学校保健安全法及び学校保健関連法規を理解し、安全で安心な学校と、学校保健活動を教育としてとらえ、生涯を健康で生きる力を育てるための自己管理能力を養うために、教育者としての養護教諭の果たす役割を理解する。地域保健と学校保健の連携における養護教諭の役割について理解する。

《テキスト》
学校保健概論　松岡弘編著　光生館　国民衛生の動向　　財団法人厚生統計協会（2年次購入済）　必要に応じプリントを配布

《参考文献》
新訂版学校保健実務必携(第2次改訂版)　学校保健・安全実務研究会　編著（第一法規）

《成績評価の方法》
出席状況　授業態度　レポート、試験等　を参考に評価する
20％；受講内容の理解　40％；課題レポート　40％；試験

《授業時間外学習》
学校保健に必要な専門基礎・看護学の復習。テキストの予習、課題レポート等の自主学習がある。

《備考》
受験資格は、授業時間数の２／３以上の出席が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　学校保健・看護の理念と目的、学校保健の制度、学校保健の構造と学校保健の推進者
第 2 週	児童生徒の健康の実態と健康管理（健康診断と学校保健安全法）
第 3 週	児童生徒の健康の実態と健康管理（現代的健康課題）
第 4 週	養護教諭の職務と保健室の機能／学校救急看護学と養護教諭に求められる看護能力
第 5 週	現代的健康課題に対応した健康教育、健康相談活動、児童虐待対応における養護教諭の役割
第 6 週	学校安全管理・学校環境管理／感染症対策と学校保健　（学校保健安全法）
第 7 週	特別支援教育と学校保健、関係機関との連携、地域における学校保健の役割
第 8 週	現代的健康課題への対応（健康教育）、まとめ
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅸ群（関連）》

科 目 名	養護概説				
担当者名	辻　立世				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
「養護」の概念、養護教諭の歴史、養護教諭の専門性について、中央教育審議会答申等を受けて養護教諭に必要な学校保健安全法、教育関連法規、教育行政、学校保健活動を推進するために必要な養護活動の過程と展開、教育としての養護活動の実際について教授する。養護活動に必要な知識と技術を養い、保健室の機能、養護教諭の職務の特質と役割を認識し、学校保健の中核的役割を果たすための能力を習得する

《授業の到達目標》
養護とは何か、養護教諭の歴史的背景と今日の養護教諭制度に至るまでの経過から、養護教諭の専門性、専門化の過程、学校保健推進に当たり養護教諭が求められている養護について理解する。学校教育における養護教諭の専門的機能と職務の特質を理解し、看護の専門科目で既修した知識と技術を活用し、教育者としての学校保健看護（養護）と看護の視点から養護活動を学習する。現代的健康課題に対応するための養護教諭の役割と教育渇仰の意義について学習する。

《テキスト》
養護学概論　編著大谷尚子　中桐佐智子（東山書房）、新養護概説、　編集代表采女智津江(少年写真新聞社)　新訂版学校保健実務必携＜第２次改訂版＞

《参考文献》
適宜紹介する

《成績評価の方法》
出席重視　授業態度・理解度　レポート、試験等で評価します。
30%；受講状況と内容の理解度　20%；課題レポート　50%；試験

《授業時間外学習》
学校保健に必要な専門基礎・看護学の復習。テキストの予習、課題レポート等の自主学習がある。

《備考》
受験資格は、１／３回（５回）以上、欠席したら試験は受験できません。(欠席すると、その後の授業が理解できません。)

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　養護の概念、養護とは、養護教諭の制度の変遷、養護教諭に関する法律、審議会答申等
第 2 週	教育関連法令と教育行政、養護教諭の専門性　専門性の考え方
第 3 週	養護教諭の専門化の過程、養護教諭の養成の変遷, 学校保健推進の中核的役割と教育者としての養護教諭
第 4 週	保健室経営と養護教諭、保健室の機能
第 5 週	養護活動の過程
第 6 週	養護活動の過程
第 7 週	養護のための技術・方法　健康・養護ニーズの把握と養護教諭の看護能力
第 8 週	養護のための技術・方法　健康･養護ニーズへの支援、学校救急処置看護
第 9 週	養護活動の展開　養護活動　健康問題に応じた養護活動（慢性疾患・現代的健康課題と健康教育・個別）
第１０週	養護活動の展開　健康問題に応じた養護活動（現代的健康課題への対応・健康教育・集団）
第１１週	養護活動の展開　健康問題に応じた養護活動（こころの問題・生活上の問題への対応）
第１２週	保健室来室者の養護活動の展開　内科的訴えへの対応
第１３週	保健室来室者の養護活動の展開　学校事故や負傷時の対応
第１４週	学校の特性に応じた養護活動の展開　特別支援教育と養護活動
第１５週	養護教諭の行う実践研究、調査･研究・プレゼンテーションの進め方

《教職に関する科目》

科 目 名	教育心理学				
担当者名	大平　曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
教育心理学は一般心理学の応用部門であり、また教育科学の一分野です。教育が生きた人間を扱う実践的な営みであることから、教育心理学も対象である子どもたちの人間形成に関わる科学として、独自な理論と方法を提示しなければなりません。受講者には、子どもの立場と教師の立場を考えながら、しかし、教室だけでなく、社会で応用できる教育心理学を理解し、人間科学的視点を養っていただきたい。
　授業では、広範な領域の中から「発達」と「学習」に重点を置き、パーソナリティと適応、測定と評価や学級集団、教師の心理なども含めて、教育実践に役立つ心理学とは何かを考えていきます。また、事例により実感を持って理解するとともに、教育者としての立場や役割、教育の楽しさに気づくこともねらいの一つです。

《授業の到達目標》
○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
○教育心理学を自らの学習や教職希望者としての態度の形成に役立てる。
○教育効果の検証ができる。

《テキスト》
配布プリントを使用する

《参考文献》
「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する

《成績評価の方法》
課題レポートの提出（４０％）、定期試験(６０％)とし、１００点満点で、６０点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業時間外学習》
プリントに基づいて授業内容を振り返り、ノートの整理や専門用語の確認をおこなう。
課題レポートは、適宜紹介する参考文献等を活用して作成する。

《備考》
目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
受講者は、毎時間の終了時に「本時の振り返り」を記入し、学習内容を明確にします。
教師を目指す者にふさわしい、授業態度と取り組みの姿勢を期待します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方について、教育心理学を学ぶ意味について）
第 2 週	教育心理学の課題（教育心理学の定義、心理学との関係、教育心理学の意義と役割、方法について）
第 3 週	発達の基礎理論（1）発達原理　発達の学説
第 4 週	発達の基礎理論（2）発達の様相　成熟と発達　発達課題
第 5 週	学習の基礎理論（1）学習成立の過程と学習理論
第 6 週	学習の基礎理論（2）学習の方法　学習成立の過程
第 7 週	学習の基礎理論（3）記憶と学習　動機とやる気
第 8 週	授業理論と最適化（1）授業理論（2）授業の最適化
第 9 週	知能とは、学力とは、何か
第１０週	測定と評価（1）評価の意義と役割　（2）学力評価、知能測定
第１１週	測定と評価（3）評価の実際
第１２週	パーソナリティ理論、適応障害
第１３週	集団の機能と構造、人間関係、集団による学習指導
第１４週	教師の役割
第１５週	学習のまとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	教育課程論（道徳、特別活動を含む）				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を理解することが、この講義の眼目である。そのために以下の項目を中心に論ずる。
（1）わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について
（2）教育課程の意義と目的について
（3）教育課程及び学習指導要領編成の内容について
（4）道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》
教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、主体的に考えることができる。

《テキスト》
1.『教育課程入門(仮)』　広岡 義之編著　　（ミネルヴァ書房）

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度 50%、講義中の小テスト 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読して、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教育課程の意義
第 3 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（1）
第 4 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（2）
第 5 週	教育課程編成の教育目的・目標および社会的基盤
第 6 週	教育課程の諸形態について
第 7 週	教育課程の編成　（幼稚園）
第 8 週	教育課程の編成　（小学校）
第 9 週	教育課程の編成　（中学校）
第１０週	教育課程の編成　（高等学校）
第１１週	道徳教育の内容について
第１２週	教育課程における特別活動の意義・役割・位置づけ
第１３週	総合的な学習の時間の取り扱いについて
第１４週	教育課程実施上の配慮事項について
第１５週	新しい学習指導要領の変更点について

《教職に関する科目》

科 目 名	教育方法・技術論				
担当者名	平井　尊士				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。特に現代人の社会と心についても様々な視点（例えば、家族・メディア・教育・文化など）からも考察する

《授業の到達目標》

各教職科目の教育目標、内容、指導方法について、特に各専門教科の学習目標や学習内容にポイントを置き、教育方法論、教育工学全般の知識、授業設計の方法、評価方法、それらを取り巻く環境等について学習する。特に、演習（模擬授業も含む）を通して、質の高い授業を実施するための、必要な教材研究等についても理解・習得し、教育現場に出ても新任教師として自立できることを到達目標とする。

《テキスト》

佐藤典子編『現代人の社会とこころ：家族・メディア教育・文化』弘文堂（2009）

《参考文献》

適宜指示し使用します。

《成績評価の方法》

[評価方法]毎回、各授業後に課すレポートや課題
[評価の割合]毎回、各授業後に課すレポートや課題（100 点）
授業欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えません

《授業時間外学習》

毎回配布する資料は学内システム（新統合 HUMANS）に電子ファイルとしておいておきます。毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》

テキストは必ず熟読すること。また必要に応じ、学内新統合 HUMANS システムおよび e-Learning システムを積極的に活用します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	1. 教育方法論の位置づけ 情報化社会における教師教育では、理念に留まらない「教育方法論」が展開しなければならない。新学習指導要領の実施に伴い、「総合的な学習」「情報」「国際化」等の教育領域に応じて教育工学的アプローチがどのように必要か併せ「教育方法論」の位置づけを概観する。さらに現代人を取り巻く環境についてもしっかりと考える。特に「私」とは誰かなどについても事例を踏まえながら考える
第 2 週	2.「教育方法」研究の歴史的背景について 諸外国の主な代表的な教育学者（ソクラテス・コメニウス、フレーベル・ペスタロッチ、デューイ・デェール、スキナー・ブルーナー等）の「教育方法」研究の歴史と日本における「教育方法」研究の歴史的背景を考察する。
第 3 週	3.「教育工学」の概要について 教育工学の意義、歴史、研究領域、研究法について論じた後、「録画授業」を視聴する。
第 4 週	4. 教育工学と教師教育について 教育課程編成の基本を説明し、伝統的なカリキュラム構造を持つ教科学習と、柔らかな構造の学習活動との指導と評価の違いについて「教育課程（教育内容）」と「教育方法」の検討を行う。
第 5 週	5. 授業実践方法の考察について 授業研究の方法論、具体的な授業研究の例をあげながら、行動科学的/認知科学的、定量的/定性的、サーベイ/ケース・スタディ、仮説検証/仮説生成の 4 つの観点から、授業方法を検討する。
第 6 週	6. 授業設計の方法 現在、授業設計から学習支援へと授業設計の考え方が変容している。そこで実際の「学習指導案」を例に挙げ、その中心である学習方略の内容について学習する。
第 7 週	7. 授業におけるコミュニケーションについて：人間関係およびコミュニケーション 「発問」「指示」は重要な教師の行動であるが、その方法に注目したとき、特に「発問」の方略が学習者の応答に対処するための「処置」と密接に関係していることがわかる。授業での「発問」の機能と役割を学ぶ。特に人間関係って何？・コミュニケーションの多様性について学問上からも考究する
第 8 週	8. 授業研究および実践授業 わが国や諸外国の総合的な学習について、その歴史的変遷や背景にある理論を説明し、「総合的な学習の時間」の授業作りの視点と方法やこれに向けた小・中学校の先導的事例を紹介する。その後、学習指導案の作成の演習を行う。
第 9 週	9. 授業研究および評価 「8.」で演習を行った内容の解説を行う。さらに授業者および学習者の観察分析評価の方法と事業改善について、総括的授業評価法としての「生徒による授業評価」や、「形成的授業評価法」による授業評価の実践とその成果を紹介しながら、評価の意義と方法について解説する。
第１０週	10. 学校教育におけるメディア環境 国の施策に基づき、コンピュータや情報通信ネットワークに代表される多種多様な情報機器が学校に導入されつつある。こうしたメディア環境を活用する授業の展開と課題について考察を行う。
第１１週	11. 情報教育カリキュラムの開発と授業実践 実際の情報教育実践や理論を取り上げ、情報活用の実践力の育成としての授業の目標と実践上の工夫について、「ITを用いた学習指導方法の工夫改善」を目途としたシステマティックな単元設計、学習環境設計、先行経験との関係について考察を行う。
第１２週	12. 教育情報データベースの開発と利用 教師のマルチメディア教材の作成（方法）や生徒が利用し調べ学習等に利用できる主な映像情報データベース（各種ポータルサイトや地域映像データベース）や学校放送番組と、その利用法について考察を行う。
第１３週	13. 遠隔共同交流学習と学習環境について テレビ会議システム及びSCS を用いて遠隔地の小中学校が結ばれ、総合的学習課題に共同して取り組む事業が多い。そこで開かれた学習環境における学習の特質とその授業構成と学習指導の方略について、事例をもとに解説し、現状と課題について考察を行う。
第１４週	14. まとめ：P-D-S サイクルにおける評価を用いた演習 授業全体を通して、「教育工学」の内容を基本的に理解させ、それが単なる机上論に終わらず実践のレベルで自作教材を作成させる。
第１５週	15. 最終まとめとレポート：職業生活と心や異文化を知ることで育む人間力などについて、しっかりと考察する。

《教職に関する科目》

科 目 名	生徒指導論（進路指導を含む）				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）を積極的に推進するには、生徒指導、進路指導、いわゆるガイダンス・カンセリングが必要不可欠である。本講義では、このような生徒の全人格的な育成を主眼とした生徒指導と進路指導を目指し、それぞれの事項についての深い理解ができることをねらいとする。

《授業の到達目標》

学校教育における生徒指導と進路指導の意義と役割を明らかにする。生徒指導と進路指導とは生徒が自己実現を図るためには車の両輪のように必須の内容であり、学校教育の上で重要な位置を占めるものである。本講義では現代における生徒指導及び進路指導の在り方の確立を目指す。

《テキスト》

『新しい生徒指導・進路指導』加澤恒雄・広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	生徒指導の教育的意義と課題
第 3 週	生徒指導の原理と理論
第 4 週	児童・生徒理解の進め方
第 5 週	学級経営の進め方
第 6 週	教科指導と生徒指導
第 7 週	生徒指導実践における教師像と研修
第 8 週	学校の生徒指導体制と家庭・地域との連携
第 9 週	進路指導の意義と課題
第１０週	自己の発見と自我同一性の確立
第１１週	就労観・職業観の形成と変容
第１２週	進路指導実践の学校体制
第１３週	学校教育における進路指導の実践展開（1）
第１４週	学校教育における進路指導の実践展開（2）
第１５週	本講義のまとめと重要箇所の復習

平成 20 年度
(2008 年度)
入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		28 単位	18 単位	9 科目
専門教育科目	専門基礎科目	27 単位	27 単位	15 科目
	専門実践科目	77 単位	77 単位	38 科目
	総合科目	—	—	—
	関連科目	—	—	—
合　　計		132 単位	122 単位	62 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成20年度（2008年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門基礎科目	Ⅰ群（人間生活と社会環境）	社会福祉論	講義		1				1								
			家族関係論	講義		2										2		
			保健福祉行政論	講義	1		◇	□						1				（河野 真）
			精神保健	講義		2			○		2							
			公衆衛生学	講義	2		◇	□	○			2						
			保健医療福祉統計	講義	2		◇	□				2						
			情報管理と疫学	講義	2		◇	□			2							
			健康科学	講義		2				2								
			リスクマネジメント論	講義		1								1				［松野 征美子］
		Ⅱ群（人体の仕組みと機能）	基礎生物学	講義		2				2								
			生理学	講義	2		◇	□	○		2							
			解剖学	講義	2		◇	□	○	2								
			生化学	講義		2					2							
			栄養学	講義	2		◇	□	○		2							
			薬理学	講義	2		◇	□	○		2							
			病理学	講義	2		◇	□					2					
			免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○		2							
		Ⅲ群（疾病の成因と予防・回復）	予防医学概論	講義		2			○	2								
			病態学Ⅰ（内科系）	講義	2		◇	□			2							
			病態学Ⅱ（内科系）	講義	2		◇	□			2							
			病態学Ⅲ（外科系）	講義	1		◇	□				1						
			病態学Ⅳ（周産期・小児科系）	講義	2		◇	□				2						
			リハビリテーション科学	講義	1		◇	□					1					
			トレーニング科学	講義		2							2					
	専門実践科目	Ⅳ群（基礎看護）	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2								
			基礎看護学Ⅰ	講義	2		◇	□	○		2							
			基礎看護学Ⅱ	講演	2		◇	□	○			4						
			基礎看護学Ⅲ	講演	2		◇	□	○				4					
			看護教育論	講義	1		◇	□								1		
			看護管理学	講義	1		◇	□								1		
			基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○		3							
			基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○				6					
		Ⅴ群（発達看護）	母性看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			母性看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			母性看護学実習	実習	2		◇	□							6			若井 和子
			周産期看護学	講義	2		◇	□						2				若井 和子
			小児看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			小児看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			小児看護学実習	実習	2		◇	□							6			川上 あずさ
			思春期看護学	講義	2		◇	□	○					2				川上 あずさ・池田 友美
		Ⅵ群（成人看護）	成人看護学Ⅰ	講義	2		◇	□			2							
			成人看護学Ⅱ	講義	2		◇	□				2						
			成人看護学Ⅲ	講義	2		◇	□				2						
			成人看護学実習Ⅰ	実習	4		◇	□							12			坂上 晶代
			成人看護学実習Ⅱ	実習	4		◇	□							12			坂上 晶代
			老年看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			老年看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			老年看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□							3			段 亜梅・齋藤 智江
			老年看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□							9			齋藤 智江・段 亜梅

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成20年度（2008年度）入学者対象

（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門実践科目	Ⅶ群（地域看護）	精神看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			精神看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			精神看護学実習	実習	2		◇	□							6			加藤 知可子・眞野 祥子
			地域看護学Ⅰ（概論）	講義	2			□				2						
			地域看護学Ⅱ（地域活動論）	講義	4			□					4					
			地域看護学Ⅲ（産業保健・学校保健）	講義	2			□						2				辻 立世・［栗岡 住子］・久井 志保
			地域看護学Ⅳ（行政看護）	講義	1			□						1				芝田 ゆかり・［津村 寿子］
			地域看護学Ⅴ（国際看護）	講義	1			□						1				段 亜梅
			地域看護学Ⅵ（災害看護）	講義	1			□						1				［西上 あゆみ］
			地域看護学実習	実習	3			□								9		
			在宅看護論Ⅰ	講義	2		◇	□						2				式 恵美子
			在宅看護論Ⅱ	講義	2		◇	□						2				式 恵美子
			在宅看護実習	実習	2		◇	□								6		
	総合科目	Ⅷ群	看護研究Ⅰ	演習		2										2		
			看護研究Ⅱ	演習		2											2	
	関連科目	Ⅸ群	学校保健	講義		2			○					2				辻 立世
			学校保健演習	演習		2			○						2			辻 立世
			養護概説	講義		2			○					2				辻 立世
			健康相談活動の理論と実践	講義		2			○							2		

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
教職に関する科目	教職概論	講義		2			○	2								
	教育原理	講義		2			○	2								
	教育史	講義		2			●						2			不開講
	教育心理学	講義		2			○				2					
	教育制度論	講義		2			○		2							
	教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			○				2					
	道徳教育論	講義		2			○			2						
	教育方法・技術論	講義		2			○				2					
	教育方法論	講義		2			○						2			［吉村 和彦］
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○			2						
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○		2							
	総合演習	演習		2			○					2				辻 立世
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○							5		辻 立世

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《Ⅰ群（人間生活と社会環境）》

科 目 名	保健福祉行政論				
担当者名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに，保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深める。
日本の保健福祉行政の今日的動向とシステムに内在する問題点を明らかにし，保健と福祉の連携やサービス供給の多元化，急速に進む少子高齢化への対応を軸に展開されている制度改革の動向について検討する。
看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」に対応する科目であり，とりわけ「目標 2」に関連する領域の受験対策を意識した講義を実施する。また，保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《授業の到達目標》
社会保障の役割，理念，機能，制度の体系について理解する。
保健医療福祉行政の要点について知識を深める。

《テキスト》
『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻１）』医学書院，2008，および授業中に配布するプリント。

《参考文献》

《成績評価の方法》
定期試験 90%，授業への参加とその成果 10%。

《授業時間外学習》
本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり，受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で，幅広い知識を身につけなければならないため，予習・復習が単位取得の必須の要件となる。
講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション：講義の課題と対象 社会保障の理念・日本の保健医療福祉活動の基本方向
第 2 週	社会保険制度（1）社会保険の変遷・医療保険制度
第 3 週	社会保険制度（2）介護保険制度
第 4 週	社会保険制度（3）年金制度・その他の社会保険制度
第 5 週	社会福祉諸法の理念と施策（1）
第 6 週	社会福祉諸法の理念と施策（2）
第 7 週	保健医療福祉行政論の要点整理（国家試験対策講座 1）
第 8 週	保健医療福祉行政論の要点整理（国家試験対策講座 2）
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅰ群（人間生活と社会環境）》

科 目 名	リスクマネジメント論				
担当者名	松野　征美子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

概論：医療事故を取り巻く要因を知ることにより、自己防止対策について理解する。
各論：医療におけるリスクマネジメントとは
　　：看護業務と法的責任
　　：事故防止対策
　　：事故防止のための教育

《授業の到達目標》

患者が安心して医療を受けるためには、患者と医師との信頼関係を基盤とする質の高い安全な医療を提供する必要がある。しかし、近年医療の高度化、専門化が急速に進み、医療内容はますます複雑化、細分化しており医療事故が多発している。

看護業務の特殊性や医療事故の動向を知り、不幸にして医療事故を起こさないために医療安全対策の基本を学ぶ。

《テキスト》

日本看護協会看護業務基準集　最新版 2007 年：日本看護協会編

《参考文献》

・「ケアの質向上のためのリスクマネジメント」メディカ出版
・「医療現場のリスクマネジメント」第一法規
・「平成 14 年度看護白書」日本看護協会出版会
・「ヘルスケアリスクマネジメント」医学書院
・「ヒヤリ・ハット報告の分析と活用」メヂカルフレンド社

《成績評価の方法》

・筆記試験 100%

《授業時間外学習》

実習中学んだ医療事故防止対策について具体的にどのようなものがあるかを調べておく。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	リスクマネジメントとは（講義）
第 2 週	看護業務と法的責任①（講義）
第 3 週	看護業務と法的責任②（講義）
第 4 週	自己防止対策①（講義）
第 5 週	自己防止対策②（講義）
第 6 週	自己分析と活用（講義、グループワーク）
第 7 週	事故防止のための取り組み
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ｖ群（発達看護）》

科 目 名	母性看護学実習				
担当者名	若井　和子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児の特性を理解し，実習を通して対象の健康回復への看護および，より健康な生活に向けて家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的としています。

《授業の到達目標》

１．妊娠・分娩・産褥各期の経過を理解し，対象の個別性に応じた看護および保健指導を学ぶ。
２．新生児の生理的特徴や変化を理解し，胎外生活適応への看護を学ぶ。
３．母性・父性の発達過程について述べることができる。
４．児と母親を取り巻く環境を理解し，家族に対する支援の重要性を学ぶことができる。
５．周産期の看護を通して倫理上の諸問題について考えることができる。
６．周産期看護・管理の特徴を理解し，母児を取り巻く医療チームとしての役割と連携を学ぶ。
７．母性看護学実習を通して看護職者としての行動と協働について学び，学生らしい態度で実習することができる。

《テキスト》

母性看護学Ⅰ・Ⅱおよび周産期看護学のテキストに準ずる。

《参考文献》

母性看護学Ⅰ・Ⅱおよび周産期看護学の参考文献に準ずる。

《成績評価の方法》

母性看護学実習の評価表に基づいて評価を行います。

《授業時間外学習》

産褥期の退行性変化，進行性変化については，テキストと実際との比較を毎回行ってください。個別性をふまえてフィジカルアセスメントすることが講義で学んだことを実践に結び付けて理解を深めることにつながります。

《備考》

１．病院，産院，助産院で実習を行います。実習要綱を熟読してください。
２．事前学習・演習を十分行ったうえで実習に臨んでください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護の実際，看護過程の展開（月～金）　【詳細は実習要綱を参照】
第 2 週	妊婦・産婦・褥婦・新生児への看護の実際，看護過程の展開（月～金）　【詳細は実習要綱を参照】
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ｖ群（発達看護）》

科 目 名	周産期看護学				
担当者名	若井　和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

周産期における母子の健康と看護について学び，対象に適した看護を展開する能力を養います。また，この講義では，演習を取り入れており，周産期における母子に必要な看護の原理･原則を学び，安全に看護を実施するための基礎的技術の習得をねらいとしています。

《授業の到達目標》

○ 周産期にある母子および家族を対象とした事例の看護過程を展開することができる。
○ 周産期にある母子に対して，科学的根拠に基づいた看護を安全に実施することができる。

《テキスト》

「ナーシング・グラフィカ 30　母性看護実践の基本」横尾京子他　メディカ出版
「ナーシング・グラフィカ 31　母性看護学　母性看護技術」横尾京子他　メディカ出版

《参考文献》

「写真でわかる母性看護技術」平澤美恵子他　インターメディカ
「新体系看護学 33　妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護」　新道幸恵他　メヂカルフレンド

《成績評価の方法》

評価方法は，筆記試験（50%），技術試験（50%）を合わせた得点とします。

《授業時間外学習》

安全で確実な看護技術を実施するためには，計画的に学内演習を繰り返し行う必要があります。
自己の技術到達状況を確認しながら授業時間外演習の計画を立てて学習を進めてください。

《備考》

新生児人形を実際の新生児として大事に取り扱ってください。
【演習】は白衣で行います。速やかに更衣して講義開始時間を厳守してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	周産期看護の意義，事例紹介
第 2 週	妊娠期のヘルスアセスメントおよび看護過程の展開①
第 3 週	妊娠期のヘルスアセスメントおよび看護過程の展開②
第 4 週	分娩期のヘルスアセスメントおよび看護過程の展開
第 5 週	産褥期のヘルスアセスメントおよび看護過程の展開
第 6 週	新生児のヘルスアセスメント
第 7 週	妊婦の看護にかかわる技術①　【演習】
第 8 週	妊婦の看護にかかわる技術②　【演習】
第 9 週	産婦の看護にかかわる技術①　【演習】
第１０週	産婦の看護にかかわる技術②　【演習】
第１１週	褥婦の看護にかかわる技術①　【演習】
第１２週	褥婦の看護にかかわる技術②　【演習】
第１３週	新生児の看護にかかわる技術①　【演習】
第１４週	新生児の看護にかかわる技術②　【演習】
第１５週	学習のまとめ

《Ｖ群（発達看護）》

科 目 名	小児看護学実習				
担当者名	川上　あずさ				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
小児の健康のレベル、発達段階をふまえた看護を学ぶために、幼稚園と病院の小児病棟で実習を行います。

《授業の到達目標》
小児各期の特徴を理解し、健康のレベルや発達段階をふまえ、子どもがもっている力が発揮できるよう看護するための基礎的能力を習得する。

《テキスト》
小児看護学１　小児看護学概論　医学書院
小児看護学２　小児臨床看護看護各論　医学書院

《参考文献》
小児看護技術　メディカ出版
子どものフィジカルアセスメント　金原出版

《成績評価の方法》
小児病棟実習評価表および幼稚園実習評価表に基づいて行います。

《授業時間外学習》
実習開始までに、提示された事前学習を行って、実習に臨んでください。

《備考》
学内での講義・演習と実習が統合できるよう心がけてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ｖ群（発達看護）》

科 目 名	思春期看護学				
担当者名	川上　あずさ・池田　友美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
学内での講義・演習と実習が統合できるよう心がけてください。

《授業の到達目標》
思春期の子どもの特徴をふまえ、おこりやすい健康問題や課題を解決するための援助について理解する。

《テキスト》
小児看護学１　小児看護学概論　医学書院

《参考文献》
必要時、紹介します。

《成績評価の方法》
定期試験 70%、レポートなどの指示した提出物 30%で評価します。

《授業時間外学習》
子どもの思春期以前の発達段階について理解しておくこと。
事前に配布する資料や文献を読み、内容を理解して授業に臨んでください。

《備考》
実習につながる重要な授業であることを認識して、授業に臨んでください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	思春期にある子どもの特徴１
第 2 週	思春期にある子どもの特徴２
第 3 週	思春期におこりやすい健康問題１
第 4 週	思春期におこりやすい健康問題２
第 5 週	思春期のセルフケア困難と看護
第 6 週	キャリーオーバーと成育看護
第 7 週	事例検討１　事例の理解
第 8 週	事例検討１　援助方法の検討
第 9 週	事例検討１　援助方法の検討
第１０週	事例検討２　事例の理解
第１１週	事例検討２　援助方法の検討
第１２週	事例検討２　援助方法の検討
第１３週	事例検討３　事例の理解
第１４週	事例検討３　援助方法の検討
第１５週	事例検討３　援助方法の検討

《Ⅵ群（成人看護）》

科 目 名	成人看護学実習Ⅰ				
担当者名	坂上　晶代				
授業方法	実習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
詳細は成人看護学実習Ⅰ実習要項を参照

《授業の到達目標》
健康生活の突然の破綻や侵襲的な治療を体験する成人の対象者・家族の心理・社会的側面を理解し、その状況や変化に応じて援助ができる基本的な知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》
別途

《参考文献》
実習内容、実習進度に応じて別途指示

《成績評価の方法》
成人看護学実習Ⅰ実習要項の評価表（100%）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》
受け持ち患者に関連のある参考書等を熟読し、自己学習ノートにまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	実習要項(成人看護学実習Ⅰ)を参照
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅵ群（成人看護）》

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ				
担当者名	坂上　晶代				
授業方法	実習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
詳細は成人看護学実習Ⅱ実習要項を参照

《授業の到達目標》
慢性的な健康障害をもつ成人に対する看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》
別途

《参考文献》
実習内容・実習進度に応じて別途指示

《成績評価の方法》
成人看護学実習Ⅱ実習要項の評価表（100%）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》
受け持ち患者に関連のある参考書等を熟読し、自己学習ノートにまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	成人看護学実習Ⅱ実習要項を参照
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅵ群（成人看護）》

科 目 名	老年看護学実習Ⅰ				
担当者名	段　亜梅・齋藤　智江				
授業方法	実習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
介護保険施設で生活している高齢者の状況を知り、その人がより健康的な生活を営むことができるように支援するための医療・保健・福祉サービスにおける看護職の役割・機能を理解する。

《授業の到達目標》
介護保険施設で実習を行う。詳細は老年看護学実習要項を参照。

《テキスト》
老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱで用いたテキストに準じる。

《参考文献》
適宜提示

《成績評価の方法》
老年看護学実習Ⅰの評価表（100%）に基づいて評価する。

《授業時間外学習》
関連内容を事前・事後学習すること。

《備考》
実習に関する詳細は看護学実習要綱および老年看護学実習Ⅰ実習要項を参照。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	詳細内容や方法等は老年看護学実習要項に参照。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅵ群（成人看護）》

科 目 名	老年看護学実習Ⅱ				
担当者名	齋藤　智江・段　亜梅				
授業方法	実習	単位・必選	3・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持・拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習Ⅱ実習要項参照

《テキスト》

老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱで用いたテキストに準ずる

《参考文献》

適宜提示する

《成績評価の方法》

老年看護学実習Ⅱの評価表（100%）に基づいて評価する

《授業時間外学習》

関連内容を事前・事後学習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	詳細内容や方法等は老年看護学実習要項に参照。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	精神看護学実習				
担当者名	加藤 知可子・眞野 祥子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
病院，作業所等での実習を行う。詳細は精神看護学実習要綱参照のこと。一人の患者を受け持ち，看護過程の展開を行う。またグループでレクリエーションを企画・実施する。

《授業の到達目標》
精神障害者とその家族を理解し，日常生活の自立に向けて，精神障害者の個別性に応じた看護を実践できる基礎的能力を身につけるとともに，心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源について学ぶ。

《テキスト》
精神看護学Ⅰ・Ⅱのテキストに準じる。

《参考文献》
『精神看護学　学生ー患者のストーリーで綴る実習展開』田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
『オレムのセルフケアモデル　事例を用いた看護過程の展開　第２版』宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）
その他，精神看護学Ⅰ・Ⅱおよび他の参考文献に準じる。

《成績評価の方法》
精神看護学実習の評価表（100%）に基づいて評価を行なう。

《授業時間外学習》
精神看護学実習に関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》
１．実習要綱・要項をよく読んでおくこと。
２．事前学習・演習をしっかり行って実習に臨んでください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	内容の詳細は実習要綱で提示する
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	地域看護学Ⅲ（産業保健・学校保健）				
担当者名	辻　立世・栗岡　住子・久井　志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

（学校保健）地域の中の学校保健として児童生徒の健康の実態を把握し、現代的健康課題に対応するための健康教育や看護能力について学び、生涯健康で生きる力を養う。学校保健推進の中核的役割を果たす養護教諭の役割、職務の特質と保健室の機能を理解する。慢性疾患や障害を持つ児童生徒の理解、感染症の予防、児童虐待防止、学校事故対策、学校救急看護の現状について学習する。地域保健と学校保健の役割と連携のあり方を理解する。

（産業保健）産業保健のめざすものを理解し、その重要性を認識する。産業保健の動向と現状を理解し、健康課題を認識する。産業保健の推進体制と推進活動に係る基礎知識を習得する。産業保健における看護職の役割と職務を理解する。

《授業の到達目標》

（学校保健）看護師･保健師等の看護職として学校保健を担う人々を理解し、学校保健安全法及び学校保健関連法規を理解し、安全で安心な学校と、学校保健活動を教育としてとらえ、生涯を健康で生きる力を育てるための自己管理能力を養うために、教育者としての養護教諭の果たす役割を理解する。地域保健と学校保健の連携における養護教諭の役割について理解する。

（産業保健）産業保健活動の目的は働く人々が労働と健康の調和を図り、心身ともに健康で充実した職業生活が出来るよう支援することである。産業保健活動のファーストラインスタッフである産業看護職の役割と職務について考える。

《テキスト》

（学校保健）三訂地域看護学　編著　津村智恵子　中央法規（2 年次購入済み）　国民衛生の動向　財団法人厚生統計協会（2 年次購入済）　必要に応じプリントを配布

（産業保健）改定地域看護学　中央法規出版（2 年次購入済）

《参考文献》

(学校保健) 新訂版学校保健実務必携　学校保健・安全実務研究会　編著（第一法規）

《成績評価の方法》

出席状況　授業態度　レポート、試験等　を参考に評価する

（学校保健）20％；受講内容の理解　40％；課題レポート　40％；試験

（産業保健）20％；受講内容の理解　40％；課題レポート　40％；試験

《授業時間外学習》

予習をしておくこと、課題レポート等の自主学習がある

《備考》

受験資格は、授業時間数の２／３以上の出席が必要である

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　学校保健・看護の理念と目的、学校保健の制度、学校保健の構造と学校保健の推進者
第 2 週	学児童生徒の健康の実態と健康管理（健康診断と学校保健安全法）
第 3 週	児童生徒の健康の実態と健康管理（現代的健康課題）
第 4 週	養護教諭の職務と保健室の機能／学校救急看護学と養護教諭に求められる看護能力
第 5 週	現代的健康課題に対応した健康教育、健康相談活動、児童虐待対応における養護教諭の役割
第 6 週	学校安全管理・学校環境管理／感染症対策と学校保健　（学校保健安全法）
第 7 週	特別支援教育と学校保健、関係機関との連携、地域における学校保健の役割
第 8 週	産業保健の意義と組織・活動
第 9 週	労働と生活、労働環境と健康問題、職場巡視
第１０週	健康診断と事後措置、健康相談
第１１週	健康教育、健康づくり
第１２週	産業メンタルヘルス
第１３週	地域との連携
第１４週	現在の産業保健の課題と今後の展望について
第１５週	（学校保健）現代的健康課題への対応（健康教育）

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	地域看護学Ⅳ（行政看護）				
担当者名	芝田　ゆかり・津村　寿子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
保健医療福祉行政の法的基盤およびその現状・課題を学習する。
公衆衛生看護における保健師の役割とその責務を学習する。

《授業の到達目標》
国・都道府県・市町村等、行政のしくみと役割を理解する。
公衆衛生看護における保健師の役割とその責務を理解する。

《テキスト》
標準保健師講座１「地域看護学概論」編著／中村裕美子他　医学書院
標準保健師講座　別巻１　「保健医療福祉行政論」　編著／藤内修二他　医学書院
国民衛生の動向　厚生統計協会

《参考文献》
三訂地域看護学　編著／津村智恵子他　中央法規
その他適宜、講義時に紹介予定

《成績評価の方法》
筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等提出物（15%）で総合評価する。

《授業時間外学習》
予習と復習を行い、理解に努めること

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	行政看護（公衆衛生看護）とは
第 2 週	公衆衛生看護活動に関する法規
第 3 週	保健医療福祉行政の制度について
第 4 週	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ
第 5 週	地域保健行政と保健師活動
第 6 週	地域診断と保健師活動
第 7 週	地域看護計画・実践・評価
第 8 週	まとめ、テスト
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	地域看護学Ⅴ（国際看護）				
担当者名	段　亜梅				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

看護は、人種や国籍を超えた普遍性をもつ専門的な職業であるため、私たちは、国境にこだわらない看護学を学ぶ必要がある。特に、グローバリゼーションがますます進展している現在、各国のできごとは、相互に影響を及ぼし合い、けっして１つの国のできごととしてはおさまらない状況にある。同じ地球に住む人間として、相互に関心を持ち、助け合うことが大切であり、地球をまもり、人類全体が健康に生きていくことへとつながっていく。このような現状を理解し、グローバルな視野を持って、世界の健康やヘルスケアを考え、そして貢献できるように国際看護学の基本知識および国際医療保健・看護活動における看護の役割について学習する。

《授業の到達目標》

１．国際看護学の概念・目的・必要性について理解する。
２．国際看護活動に関係する看護の組織と機能について理解する(WHO・ICN・ODA・JICA)。
３．諸外国の看護と日本の看護教育・実践・研究を比較検討し、世界に貢献する日本の看護の方向性を模索する。
４．国際看護学の学習を通じて、人間の健康に与える政治、経済、文化など社会的環境に対する理解を深め、関心を広げる。

《テキスト》

「国際看護学入門」(2009)：国際看護研究会編, 医学書院.

《参考文献》

「新体系看護学全書 39　国際看護学」（2009)：田村やよひ,メヂカルフレンド社.
「看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学」（2010）：日本赤十字社事業局看護部編,医学書院.
「国際保健・看護」（2005）：丸井英二・森口育子,　弘文堂.
「国民衛生の動向」(2009)
その他適宜授業で提示

《成績評価の方法》

出席や授業への参加態度（20%）・課題（レポート）の取り組み（50%）・筆記試験（30%）による総合的評価 .

《授業時間外学習》

授業内容や課題に関連する参考資料を熟読し、自ら求める看護に疑問を起こし、授業に臨む態度を培う。身近に住む世界の人々と交流し、国際看護について考える。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	４／１２　　オリエンテーション（授業計画や進み方等）
第 2 週	４／１９　　国際看護学の概念・目的・必要性等
第 3 週	４／２６　　国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組み
第 4 週	５／１０　　グループワーク　：世界の主要な健康課題
第 5 週	５／１７　　異文化理解１
第 6 週	５／２４　　異文化理解２
第 7 週	５／３１　　グループワーク　：在日外国人の主要な健康課題（受診問題も含む）
第 8 週	６／　７　　授業のまとめ（復習や評価）
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	地域看護Ⅵ（災害看護）				
担当者名	西上　あゆみ				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

現在世界中で災害が頻発していますが、医療現場の最前線で働く看護職者は災害への興味に関係なく、その現場で働く可能性があります。災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要です。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害の各段階の特徴、人や社会への影響、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、そこから看護職の役割の理解を深めます。

《授業の到達目標》

1.災害の種類や各段階の特徴、対策活動が説明できる
2.災害看護及び災害時の看護職の役割と必要な看護技術を説明できる
3.災害被災者や救護者の心身の状況を理解し、その対策について考えることができる

《テキスト》

プリント配布

《参考文献》

『災害看護学習テキスト　概論編』南　裕子・山本あい子編集　日本看護協会出版会
『災害看護学習テキスト　実践編』南　裕子・山本あい子編集　日本看護協会出版会

《成績評価の方法》

授業への参加状況、レポートにより評価します。
2日間の集中講義ですが、1日目終了時と2日目終了時のそれぞれにレポート課題を提示します。
1日目の課題レポート(30%)、2日目の課題レポート(70%)
2回のレポートが揃わなければ、採点の対象としません。

《授業時間外学習》

・予習の方法
　地震災害、新型インフルエンザなど最近起こった災害について新聞記事・書籍等を読んでおいて下さい。
　インターネットで災害に関する情報や看護活動を検索してみて下さい。
・復習の方法
　2日しかありませんので、基本的に授業日に質問して下さい。(1日目の講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます)
　配布プリントと授業中に紹介する文献で自己学習を深めて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	災害とは/災害看護とは：災害の定義、災害看護の定義・災害のサイクルと各期の特徴と健康問題
第 2 週	災害急性期の看護：災害医療システム・トリアージ・被災者の医療ニーズ
第 3 週	災害中・長期の看護：避難所における看護活動・中長期におこる健康問題
第 4 週	こころのケア：被災者の心理・メンタルケア
第 5 週	要援護者へのケア：対象者(子ども・妊産褥婦・慢性疾患患者・高齢者)別のケア
第 6 週	災害への備え：自己防災・病院防災・地域防災
第 7 週	救援活動：国内外の体制・支援活動・救護者へのケア
第 8 週	まとめ　災害看護の今後の課題
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	在宅看護論Ⅰ				
担当者名	式　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
在宅における看護は、療養者の生活を健康課題の面から支援する役割を持っている。対象は、健康課題については慢性疾患を抱えながら療養生活をしている人や障がいを持って暮らしている人などさまざまな価値観を持って地域で生きる人々であり、対象には家族を含めて一体として考える。対象を支援するために在宅ケアシステムとして介護保険制度やチームケア体制および社会資源について理解する。

《授業の到達目標》
１．在宅看護の歴史と背景について理解する
２．在宅における療養者とその家族について理解する
３．在宅看護に関連する法規について理解する
４．在宅看護の特長について理解する
５．在宅看護における倫理的課題

《テキスト》
編集：杉本正子，真船拓子（2010）「在宅看護論」第５版，ヌーベルヒロカワ
監修：樋口キエ子　　編著：樋口キエ子，式惠美子（2010）「退院支援から在宅ケアへ」筒井書房

《参考文献》
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅰ概論編
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅱ実践編
厚生労働白書，国民衛生の動向，高齢社会白書，国民の福祉の動向

《成績評価の方法》
定期試験による評価（80%）
出席状況と積極性（10%）課題レポート提出状況（10%）

《授業時間外学習》
介護保険制度を利用している人へのインタビュー
訪問看護師の活動記録の書物（文献）の読書レポート
道路や建造物のバリアフリー状況を視察する
その他随時提示する

《備考》
レポートには、文献を使ってください
レポート提出は、期日を守って下さい

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	公衆衛生看護，地域看護，在宅看護，在宅看護関連用語
第 2 週	在宅看護の歴史，療養生活を支援する看護職
第 3 週	在宅看護を取り巻く社会状況
第 4 週	在宅看護を巡る社会政策
第 5 週	医療機関からの退院を巡る状況
第 6 週	在宅療養者と家族
第 7 週	在宅療養者と家族
第 8 週	在宅看護を可能にする要件
第 9 週	介護保険制度
第１０週	介護保険制度
第１１週	在宅看護の基礎知識
第１２週	在宅看護の展開
第１３週	関係職種と社会資源
第１４週	在宅療養者の権利保障，倫理的課題
第１５週	諸外国の状況

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	在宅看護論Ⅱ				
担当者名	式　恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
在宅療養者の健康特性に応じた援助方法を理解し、療養者と家族を支援するために医療・看護・福祉における他職種との連携のあり方を理解する。

《授業の到達目標》
健康課題や障がいの課題が日常生活に影響を及ぼしている状況を理解する
在宅療養者に対する日常生活における支援の方法を理解する
在宅で生活する療養者の事例を検討し、看護過程の展開法を理解する

《テキスト》
編集：杉本正子，真船拓子（2010）「在宅看護論」第５版，ヌーベルヒロカワ
監修：樋口キエ子，編著：樋口キエ子，式惠美子（2010）「退院支援から在宅ケアへ」，筒井書房

《参考文献》
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅰ概論編
渡辺裕子監修：「在宅看護論」Ⅱ実践編

《成績評価の方法》
定期試験による評価（80%）
出席状況と積極性　　課題レポート提出（10%）

《授業時間外学習》
介護保険制度を利用している人へのインタビュー
デイサービス利用者などとの会話
介護保険制度での福祉用具の展示会などの見学
介護保険制度その他における住宅改修などの見学

《備考》
レポートには、文献を使ってください
レポート提出は、期限を守ってください

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	訪問看護の開始
第 2 週	在宅療養者の食生活を支援するケア
第 3 週	在宅療養者の排泄を整えるケア
第 4 週	在宅療養者の排泄を整えるケア
第 5 週	在宅療養者の生活を保持するケア（褥瘡のケアを含む）
第 6 週	在宅療養者の呼吸状態を整えるケア
第 7 週	在宅療養者の呼吸状態を整えるケア
第 8 週	在宅療養者の活動機能低下の予防とケア
第 9 週	在宅療養者の活動機能低下の予防とケア
第１０週	在宅療養者の感染症の予防とケア
第１１週	在宅療養者の終末期のケア
第１２週	在宅療養者の終末期のケア
第１３週	在宅療養者の事例検討
第１４週	在宅療養者の事例検討
第１５週	まとめ

《Ⅸ群》

科 目 名	学校保健				
担当者名	辻　立世				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
地域看護学Ⅲにおける学校保健、養護概説、看護学等で学習したことを基に、学校教育における学校保健関係職員とその役割、学校保健推進の中核的役割をなす専門職としての養護教諭の職務の特質と役割を総合的に学習する。児童生徒の保健管理・保健指導（健康教育）の現状について、学校教育活動として教職員の学校保健活動の役割と養護教諭の連携などについて学習する。

《授業の到達目標》
地域看護学Ⅲにおける学校保健、養護概説、看護学等で学習したことを基に、学校教育における学校保健、学校保健の専門職としての養護教諭の職務の特質と役割を総合的に学習する。

《テキスト》
新養護概説(第４版)　編集代表　采女智津江　（少年写真新聞社）　新訂版 学校保健実務必携(第２次改訂版)　学校保健・安全実務研究会　編著（第一法規）教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応　文部科学省（少年写真新新聞社）養護概説で使用しているテキスト、　新自作のプリント

《参考文献》
３訂養護概説　編集代表／三木とみ子（ぎょうせい）
学校保健管理・指導システム（若竹Ｖ７）　トスシステム開発　その他日本学校保健会発刊書籍（その都度紹介する）

《成績評価の方法》
出席状況　授業態度　レポート及びテストで評価
30％；受講内容の理解　20％；中間テスト、課題レポート　50％；試験

《授業時間外学習》
学校保健に必要な専門基礎・看護学の復習。テキストの予習、課題レポート等の自主学習がある。

《備考》
受験資格は、11 コマ以上の出席が必要です。
定期試験は自分のノートのみ持ち込み可とする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション、学校保健の構造、学校保健推進者、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の任務、養護教諭の専門的役割,
第 2 週	学校教育計画、学校保健計画、学校安全計画と学校保健活動における養護教諭の役割
第 3 週	児童生徒の健康把握、健康診断の準備・実施について
第 4 週	健康診断の事後措置（健康診断データー整理と情報の活用）個別指導・集団指導
第 5 週	保健室経営健康管理への対応　感染症の予防とその対応　学校環境管理と教育
第 6 週	中間試験、健康教育①　教科／保健学習（小学校編）
第 7 週	健康教育②　教科／保健学習（中・高等学校編）
第 8 週	健康教育③　教科外／学級活動・特別教育活動（薬物・飲酒・喫煙・性感染症等の現代的健康課題への対応、生活習慣の予防等）
第 9 週	健康教育④　教科外／学級活動・特別教育活動（薬物・飲酒・喫煙・性感染症等の現代的健康課題への対応、生活習慣の予防等）
第１０週	学校看護学　養護教諭に求められている看護実践能力
第１１週	障がいや慢性疾患を持つ子どもの健康管理
第１２週	学校救急看護　①保健室経営と子どもの健康実態、緊急時の対応、トリアージ
第１３週	学校救急看護　②保健室経営、学校安全と危機管理（学校管理下の事故、けがとその対応）
第１４週	学校救急看護　③学校における事故の発生と校内体制、緊急時の対応、トリアージ）
第１５週	健康教育における地域保健との連携　生涯を健康で過ごすための地域保健との連携

《Ⅸ群》

科 目 名	学校保健演習				
担当者名	辻　立世				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
養護教諭は教育者として勤務するが、医学・看護・心理等の知識と判断能力が要求される。学校保健演習では、既修の看護学をはじめ養護に関する専門科目を基に、学校保健を推進するための技術や能力を習得する。学校保健安全法に定められている健康診断の準備や健康診断項目の実施方法や事後措置の具体的方法等、養護教諭の専門的技術にかかわる演習をする。学校の保健室場面で要求される児童生徒への対応は救急看護の能力を身につける演習である。学校環境衛生管理では、学校保健で学習した内容のうち照度検査、空気検査、騒音検査、水質検査方法について演習する。またその事後指導について学習する。

《授業の到達目標》
地域看護学Ⅲにおける学校保健、養護概説、看護学等で学習したことを基に、保健管理に必要な養護教諭の力量形成。健康診断の準備・実施・事後指導に伴う技術演習。保健室経営の実際、学校救急看護として保健室における子どもの対応、学校安全、危機管理、健康教育の内容と養護教諭の関わり方、学校環境衛生検査等に必要な技術を習得する。学校教育における学校保健、学校保健の専門職としての養護教諭の職務の特質と役割を総合的に学習する。

《テキスト》
新訂版学校保健実務必携(第２次改訂版)　学校保健・安全実務研究会　編著　（第一法規）教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応　文部科学省　（日本写真新聞社）新養護概説　編集代表　采女智津江　（少年写真新聞社）新養護学概論　大谷尚子、中桐佐智子　東山書房

《参考文献》
３訂養護概説　編集代表／三木とみ子（ぎょうせい）
学校保健マニュアル　監修／高石昌弘　出井美智子（南山堂）　学校保健管理・指導システム（若竹Ｖ７）　トスシステム開発　学校環境衛生マニュアル、健康診断マニュアル（日本学校保健会)、その他日本学校保健会発刊書籍（その都度紹介する）

《成績評価の方法》
出席状況　授業態度　レポート及び発表・試験（発表と演習の実技試験、筆記）で評価
30%；演習態度、演習内容レポート、20%；課題レポート　40%；発表・試験

《授業時間外学習》
専門基礎及び既修の養護専門科目を復習し、養護教諭に必要な看護技術が演習出来るようにしておくこと。課題レポートの作成。
授業時の演習の予習･復習がある。

《備考》
受験資格は、11 コマ以上の出席が必要です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション、学校保健に必要な養護教諭の専門的技術について
第 2 週	健康診断の準備、健康診断項目とその検査方法①
第 3 週	健康診断項目と検査方法②、保健管理と事後措置（個別指導を中心に）
第 4 週	健康診断結果の事後措置（指導)、健康情報の管理と活用、健康評価・集団指導①
第 5 週	健康診断結果の事後措置（指導)、健康情報の管理と活用、健康評価・集団指導①
第 6 週	学校救急看護①保健室来室者のアセスメントと養護活動、保健指導・メンタルヘルスへの対応演習
第 7 週	学校救急看護　②保健室来室者のアセスメントと養護活動、保健指導・メンタルヘルスへの対応演習
第 8 週	学校救急看護　③救急処置　負傷者の対応　アセスメントと養護活動　演習
第 9 週	学校救急看護　④学校安全と危機管理（学校管理下の事故、校内体制、緊急時の対応クラブ活動中の安全管理・安全指導（夏季運動クラブ活動中の事故の防止、救急薬の指導）
第１０週	健康教育①　教科／保健学習（小学校編）
第１１週	保健教育①　教科／保健学習　教案の作成について
第１２週	健康教育①　教科外／学級活動・特別教育活動（手洗い・薬物・喫煙・生活習慣の予防等　教案作成
第１３週	健康教育②　教科外／学級活動・特別教育活動（発表会）
第１４週	学校環境管理と教育
第１５週	演習のまとめと試験

《Ⅸ群》

科 目 名	養護概説				
担当者名	辻　立世				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
「養護」の概念、養護教諭の歴史、養護教諭の専門性について、中央教育審議会答申等を受けて養護教諭に必要な学校保健安全法、教育関連法規、教育行政、学校保健活動を推進するために必要な養護活動の過程と展開、教育としての養護活動の実際について教授する。養護活動に必要な知識と技術を養い、保健室の機能、養護教諭の職務の特質と役割を認識し、学校保健の中核的役割を果たすための能力を習得する

《授業の到達目標》
養護とは何か、養護教諭の歴史的背景と今日の養護教諭制度に至るまでの経過から、養護教諭の専門性、専門化の過程、学校保健推進に当たり養護教諭が求められている養護について理解する。学校教育における養護教諭の専門的機能と職務の特質を理解し、看護の専門科目で既修した知識と技術を活用し、教育者としての学校保健看護（養護）と看護の視点から養護活動を学習する。現代的健康課題に対応するための養護教諭の役割と教育渇仰の意義について学習する。

《テキスト》
養護学概論　編著大谷尚子　中桐佐智子（東山書房）、新養護概説、　編集代表采女智津江(少年写真新聞社)　新訂版学校保健実務必携＜第２次改訂版＞

《参考文献》
適宜紹介する

《成績評価の方法》
出席重視　授業態度・理解度　レポート、試験等で評価します。
30％；受講状況と内容の理解度　20％；課題レポート　50％；試験

《授業時間外学習》
学校保健に必要な専門基礎・看護学の復習。テキストの予習、課題レポート等の自主学習がある。

《備考》
受験資格は、１／３回（５回）以上、欠席したら試験は受験できません。　（欠席すると、その後の授業が理解できません。）

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　養護の概念、養護とは、養護教諭の制度の変遷、養護教諭に関する法律、審議会答申等
第 2 週	教育関連法令と教育行政、養護教諭の専門性　専門性の考え方
第 3 週	養護教諭の専門化の過程、養護教諭の養成の変遷, 学校保健推進の中核的役割と教育者としての養護教諭
第 4 週	保健室経営と養護教諭、保健室の機能
第 5 週	養護活動の過程
第 6 週	養護活動の過程
第 7 週	養護のための技術・方法　健康・養護ニーズの把握と養護教諭の看護能力
第 8 週	養護のための技術・方法　健康･養護ニーズへの支援、学校救急処置看護
第 9 週	養護活動の展開　養護活動　健康問題に応じた養護活動（慢性疾患・現代的健康課題と健康教育・個別）
第１０週	養護活動の展開　健康問題に応じた養護活動（現代的健康課題への対応・健康教育・集団）
第１１週	養護活動の展開　健康問題に応じた養護活動（こころの問題・生活上の問題への対応）
第１２週	保健室来室者の養護活動の展開　内科的訴えへの対応
第１３週	保健室来室者の養護活動の展開　学校事故や負傷時の対応
第１４週	学校の特性に応じた養護活動の展開　特別支援教育と養護活動
第１５週	養護教諭の行う実践研究、調査･研究・プレゼンテーションの進め方

《教職に関する科目》

科 目 名	教育方法論				
担当者名	吉村 和彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

教育方法論は、学校教員にとって、「指導力」に直結する内容である。今、各学校現場では、「学習指導力」と「生徒指導力」の二点が特に求められている。また、児童・生徒、保護者が求める良い先生の条件のトップは、いつの時代も、「共感性」と「カウンセリング・マインド」を持った教員である。これらが欠けている教員は、誰からも信頼されない。養護教諭には、特にそれらの素養が求められる。グループ討議、プレゼン等を取り入れた教員・学生双方向の授業を通して、児童・生徒、保護者の多様化した教育ニーズにどのように応えていくかを学び、「真の指導力」について考えたい。

《授業の到達目標》

・保健室で、児童生徒にうなずき・共感性ある対応ができる養護教諭になる。
・保護者からの相談や様々な教育ニーズに、一緒になって考えられるカウンセリング・マインドを身につける。
・教職員と連携しながら、いじめや不登校等の問題に積極的な対応ができるスキルを学習する。
・危機管理とは何か？について学び、養護教諭の任務について深める。

《テキスト》

・特に指定しない。

《参考文献》

・必要に応じて資料などを配布する。

《成績評価の方法》

・授業への出席（20%）、学習態度（20%）、個人・グループ発表やレポート提出等（６０%）

《授業時間外学習》

・日頃から、教育関係の新聞記事をスクラップして感想を書いておく。授業の中で、発表してもらいます。
・なぜ養護教諭（看護師）になりたいのか、自分の想いをまとめておく。
・学校の保健室を将来どのような部屋にしたいか、具体に書いて、まとめておく。

《備考》

・信頼される養護教諭になるにはどうすればなれるか、について学習します。その内容は、看護師志望者にも充分役立ちます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（教育方法論とは何か？）
第 2 週	子どもとのかかわり・ふりかえりシートを使い、グループ討議・発表①
第 3 週	子どもとのかかわり・ふりかえりシートを使い、グループ討議・発表②
第 4 週	保護者とのかかわり（相談・苦情等）について、グループ討議・発表①
第 5 週	保護者とのかかわり（相談・苦情等）について、グループ討議・発表②
第 6 週	保護者とのかかわり（相談・苦情等）について、グループ討議・発表③
第 7 週	グループ討議とプレゼンテーション（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第 8 週	個人発表とグループ討議（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第 9 週	グループ討議とプレゼンテーション（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１０週	個人発表とグループ討議（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１１週	グループ討議とプレゼンテーション（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１２週	個人発表とグループ討議（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１３週	グループ討議とプレゼンテーション（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１４週	個人発表とグループ討議（全国の学校で起こっている問題を取り上げ、具体的な対応を考える。）
第１５週	まとめ（学んだことを個人、グループで発表し、学習内容の整理をする。）

《教職に関する科目》

科 目 名	総合演習				
担当者名	辻　立世				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
養護教諭は専門職として機能があり、学校保健活動の推進に当たって中核的役割を果たし、児童生徒の現代的健康課題に向けて重要な何責務を担っている。そのため、学校保健情報を基に児童生徒の健康課題を検討し、解決に向けた実践的･研究的視点で取り組む資質・能力が要求される。健康課題への対応についてライフステージに沿った健康教育、生涯を健康で生きるための地域保健と学校保健の連携、実践力と研究的視点を持った養護教諭の専門的力量を育成する。

《授業の到達目標》
学校保健情報を基に児童生徒の健康課題を検討し、解決に向けて実践的・研究的視点で取り組む資質能力を育成する。養護教諭は、校内で組織的に健康課題に、どう取り組むか、それぞれのライフステージにおける課題解決能力を、研究的な視点とエビデンスに基づいた実践能力を育成する。またこれらの実践を通して研究能力に繋がる思考力を育成し、専門職としての養護教諭の力量を高める。
健康診断から子どもの健康課題をどう発見し健康教育に発展させていくか。歯科保健予防活動として付属加古川幼稚園において歯ブラシ指導を演習する。現代的健康課題では、薬物・飲酒・喫煙・性感染症等の対応、生活習慣の予防等、子どもが自ら問題解決ができるような健康教育を計画立案し、学級活動・特別教育活動等の健康教育を楽しく演習する。学校保健情報の収集、健康問題の分析等、現代的健康課題への対応に必要な養護教諭の実践能力と研究的視点について学習する。

《テキスト》
新訂版学校保健実務必携　学校保健・安全実務研究会　編著　（第一法規）
プリント

《参考文献》
学校保健の動向　（日本学校保健会）、国民衛生の動向、学校保健、養護概説等で使用するテキストは持参すること。
既修済みのテキスト 学校保健管理・指導システム（若竹）ソフト　トスシステム開発

《成績評価の方法》
出席状況　授業態度　全レポートで評価
30％；受講状況・演習内容のレポート　40％；課題レポート　30％；発表（発表用資料を含む）

《授業時間外学習》
専門基礎及び既修の養護専門科目、子どもの発育・発達等を復習し、発達段階に応じた子どもへの対応が出来るよう予習する。
グループワークにより、健康教育の準備をする。

《備考》
欠席者の各レポートは提出できない、発表は、グループワークの参加状況、活動状況も含まれる

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション、教育者としての総合演習とは、子どもの現代的健康課題と研究的視点
第 2 週	健康診断結果の情報管理と保健指導の実際、健康情報のフィードバックによる健康課題への対応（パソコン室）
第 3 週	子どもの歯科保健の課題：歯科保健の実態と歯ブラシ指導
第 4 週	歯ブラシ指導企画：グループワーク①
第 5 週	歯ブラシ指導準備：グループワーク　②
第 6 週	歯ブラシ指導の実際：グループワーク　③
第 7 週	子どもの現代的健康課題の情報収集、現状と課題、養護教諭の役割（パソコン室）
第 8 週	子どもの現代的健康課題と課題解決に向けた対応
第 9 週	子どもの現代的健康課題への対応：グループワーク　④
第１０週	子どもの現代的健康課題への対応：グループワーク　⑤
第１１週	子どもの現代的健康課題への対応：グループワーク　⑥　発表準備
第１２週	健康教育：班別発表会、評価（計画・経過・成果）
第１３週	健康教育：班別発表会、評価（計画・経過・成果）
第１４週	児童生徒の健康課題と養護教諭の専門的役割
第１５週	ライフステージに沿った健康課題の解決を通して学習の振り返り、改めて、学校保健と地域保健の連携を理解する。 レポート

《教職に関する科目》

科 目 名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	辻　立世				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
事前指導は養護実習に必要な内容を学習する。

《授業の到達目標》
本科目は、養護実習及びそれにかかわる事前・事後指導を含ものである。３年次は実習のための事前指導となる。実習における諸注意並びに実習の心構えを含め実習の準備について学習する。養護実習が円滑・効果的な内容になるために事前学習は欠かせない。
養護実習は、学習した知識、技術を、学校教育活動、学校保健活動の中で経験し、養護教諭に必要な活動について理解を深める。さらに、学校保健計画の立案及び運営の実際を把握し、学校保健活動における養護教諭の実践を通して教育者としての養護教諭の役割を理解する。学校保健における現代的健康課題に目を向け、児童生徒の健康教育（個別・集団）に積極的に取り組み、地域保健と学校保健の連携を視野に入れた対応策について学習する。特別支援を必要とする子どもの理解と特別支援教育における養護教諭の役割及び教職員や看護師との協働について学習する。

《テキスト》
養護実習ハンドブック　東山書房　大谷尚子・中桐佐智子編著　新養護概説　采女智津江　少年写真新聞社　　改訂版「学校保健実務必携（第２次改訂版）　第一法規　学校保健・安全実務研究会　編著　　教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応　文部科学省　少年写真新聞社　その他　学校保健、養護概説等で使用したテキストが必要

《参考文献》
新養護概説＜第２版＞　　少年写真新聞社　采女智津子　編集代表

《成績評価の方法》
事前事後指導（30%）及び養護実習（実習中の態度・記録簿・その他の提出物）（70%）で評価する。
事後指導は実習報告が含まれる。

《授業時間外学習》
実習校について実態把握と実習が円滑に実施できるよう準備しておくこと。

《備考》
養護実習は４単位（一般普通校３週間、特別支援学校１週間が望ましい）そのうち事前事後指導は１単位である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(事前指導)
第 2 週	養護実習の意義と目標、養護実習の内容と方法
第 3 週	養護実習の準備
第 4 週	養護実習の準備　(特別支援学校の養護実習を含む)
第 5 週	(養護実習)
第 6 週	(養護実習)
第 7 週	(養護実習)
第 8 週	(養護実習後)
第 9 週	実習のまとめ
第１０週	実習報告
第１１週	実習報告
第１２週	実習報告
第１３週	
第１４週	
第１５週	

平成 19 年度
(2007 年度)
入学者

卒業要件単位数

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		28 単位	18 単位	9 科目
専門教育科目	専門基礎科目	27 単位	27 単位	15 科目
	専門実践科目	77 単位	77 単位	38 科目
	総合科目	—	—	—
	関連科目	—	—	—
合　　計		132 単位	122 単位	62 科目

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成19年度（2007年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門基礎科目	Ⅰ群（人間生活と社会環境）	社会福祉論	講義		1				1								
			家族関係論	講義		2										2		[菊地 真理]
			保健福祉行政論	講義	1		◇	□						1				
			精神保健	講義		2			○		2							
			公衆衛生学	講義	2		◇	□	○			2						
			保健医療福祉統計	講義	2		◇	□				2						
			情報管理と疫学	講義	2		◇	□			2							
			健康科学	講義		2				2								
			リスクマネジメント論	講義		1								1				
		Ⅱ群（人体の仕組みと機能）	基礎生物学	講義		2				2								
			生理学	講義	2		◇	□	○	2								
			解剖学	講義	2		◇	□	○	2								
			生化学	講義		2					2							
			栄養学	講義	2		◇	□	○		2							
			薬理学	講義	2		◇	□	○		2							
			病理学	講義	2		◇	□					2					
			免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○		2							
		Ⅲ群（疾病の成因と予防・回復）	予防医学概論	講義		2			○	2								
			病態学Ⅰ（内科系）	講義	2		◇	□			2							
			病態学Ⅱ（内科系）	講義	2		◇	□			2							
			病態学Ⅲ（外科系）	講義	1		◇	□				1						
			病態学Ⅳ（周産期・小児科系）	講義	2		◇	□				2						
			リハビリテーション科学	講義	1		◇	□					1					
			トレーニング科学	講義		2							2					
	専門実践科目	Ⅳ群（基礎看護）	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2								
			基礎看護学Ⅰ	講義	2		◇	□	○		2							
			基礎看護学Ⅱ	講演	2		◇	□	○			4						
			基礎看護学Ⅲ	講演	2		◇	□	○				4					
			看護教育論	講義	1		◇	□								1		道廣 睦子
			看護管理学	講義	1		◇	□								1		齋藤 智江
			基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○		3							
			基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○				6					
		Ⅴ群（発達看護）	母性看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			母性看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			母性看護学実習	実習	2		◇	□							6			
			周産期看護学	講義	2		◇	□						2				
			小児看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			小児看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			小児看護学実習	実習	2		◇	□							6			
			思春期看護学	講義	2		◇	□	○					2				
		Ⅵ群（成人看護）	成人看護学Ⅰ	講義	2		◇	□			2							
			成人看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			成人看護学Ⅲ	講義	2		◇	□				2						
			成人看護学実習Ⅰ	実習	4		◇	□							12			
			成人看護学実習Ⅱ	実習	4		◇	□							12			
			老年看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			老年看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			老年看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□							3			
			老年看護学実習Ⅱ	実習	3		◇	□							9			

カリキュラム年次配当表

看護学科　平成19年度（2007年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
専門教育科目	専門実践科目	Ⅶ群（地域看護）	精神看護学Ⅰ	講義	2		◇	□				2						
			精神看護学Ⅱ	講義	2		◇	□					2					
			精神看護学実習	実習	2		◇	□							6			
			地域看護学Ⅰ（概論）	講義	2			□				2						
			地域看護学Ⅱ（地域活動論）	講義	4			□					4					
			地域看護学Ⅲ（産業保健・学校保健）	講義	2			□						2				
			地域看護学Ⅳ（行政看護）	講義	1			□						1				
			地域看護学Ⅴ（国際看護）	講義	1			□						1				
			地域看護学Ⅵ（災害看護）	講義	1			□						1				
			地域看護学実習	実習	3			□								9		辻・[芝田]・久井
			在宅看護論Ⅰ	講義	2		◇	□						2				
			在宅看護論Ⅱ	講義	2		◇	□						2				
			在宅看護実習	実習	2		◇	□								6		式 恵美子
	総合科目	Ⅷ群	看護研究Ⅰ	演習		2										2		坂上 晶代
			看護研究Ⅱ	演習		2											2	*3
	関連科目	Ⅸ群	学校保健	講義		2			○					2				
			学校保健演習	演習		2			○						2			
			養護概説	講義		2			○					2				
			健康相談活動の理論と実践	講義		2			○							2		（大平 曜子）

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（10単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

*3 道廣・本多・式・坂上・辻・加藤（知）・齋藤・段・小林・川上・山下

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成22年度の担当者
教職に関する科目	教職の理解（研修、服務及び身分保障等を含む）	講義		2			○	2								
	教育原理	講義		2			○	2								
	教育史	講義		2			●						2			
	教育心理学	講義		2			○				2					
	教育制度論	講義		2			○		2							
	教育課程論	講義		2			○				2					
	道徳教育論	講義		2			○			2						
	教育方法・技術論	講義		2			○				2					
	教育方法論	講義		2			○						2			
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			○			2						
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			○		2							
	総合演習	演習		2			○					2				
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5			○							5		辻 立世

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《Ⅰ群（人間生活と社会環境）》

科 目 名	家族関係論				
担当者名	菊地　真理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では，家族社会学の基本的概念や理論をふまえ，家族関係や家族と社会との関係，その歴史的変化について学習する。そして，私たちが経験しがちなライフイベントを，ライフコースの時間軸に沿って各回で取り上げ解説する。未婚・晩婚化，少子高齢化，離婚・再婚の増加といった動向のなかで現れた，多様な家族経験の事例についても紹介する。授業を通じて，家族にいま何が起こっているのかを理解するだけでなく，これから家族はどうなっていくのか，それを支える社会のあり方についても，考える手がかりを得ることを目指す。授業のテーマに合わせてＶＴＲ資料を視聴することもある。

《授業の到達目標》
・「当たりまえの家族」「ふつうの家族」といったイメージや常識を再考できるようになる。
・家族を対象として展開してきた，家族社会学の基本的概念と研究関心の射程を理解する。
・統計資料や研究事例から，現代家族の動向を読み解くちからを身につける。

《テキスト》
テキストはとくにさだめない。適宜，授業内で配布する。

《参考文献》
野々山久也（編）『論点ハンドブック　家族社会学』世界思想社，2009年
藤見純子・西野理子（編）『現代日本人の家族－NFRJからみたその姿－』有斐閣ブックス，2009年
落合恵美子『21世紀家族へ　－家族の戦後体制の見かた・超えかた－』有斐閣，2004年

《成績評価の方法》
平常点（出席・授業態度・リアクションペーパー）20%，ミニレポート20%，定期試験60%

《授業時間外学習》
・授業後の復習や自己学習のために，参考文献のなかから関連のあるトピックを選び読んでみること。
・日ごろから新聞や情報誌などに触れ，家族に関する記事を積極的に探索すること。

《備考》
私語と遅刻は厳禁（減点の対象となる）。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション：　「多様化」する現代家族を考える
第 2 週	「家族」とは何か？：　「家族」の定義と範囲について
第 3 週	近代家族の成立と展開①：　戦前家族とイエ制度
第 4 週	近代家族の成立と展開②：　高度経済成長のなかの家族
第 5 週	家族のストレスとサポート：　「家族問題」を分析するための視角とアプローチ
第 6 週	未婚化社会と親子関係：　ポスト青年期，パラサイト・シングル
第 7 週	家族儀式の変遷：　結婚式からみる家族の変化
第 8 週	結婚とパートナー関係：　晩婚化，配偶者選択，パートナーシップの多様化
第 9 週	出産と子育て：　少子化，子育てとジェンダー，子育て支援
第１０週	海外の子育て：　子育ての国際比較，海外の子育て支援
第１１週	企業社会と家族：　労働とジェンダー，ワーク・ライフ・バランス
第１２週	離婚とひとり親家庭：　離婚後の家族関係とその諸問題
第１３週	再婚とステップファミリー：　再婚後の家族関係とその諸問題
第１４週	高齢期の家族：　少子高齢化，介護
第１５週	まとめ：　授業を振り返り，これからの家族のゆくえを考える

《Ⅳ群（基礎看護）》

科 目 名	看護教育論				
担当者名	道廣　睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

看護教育論とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問であり、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して人々への質の高い看護の提供を目指すものである。まず看護教育論とは何かを検討するとともに看護教育制度の歴史的変遷と現在の看護教育制度の現状と課題について明らかにする。特に看護基礎教育で大きな役割を果たす臨地実習については、教師が何を考え、何を大切にして教育しているのかを知り、又、学生自身が臨地実習で直面しやすい問題をどう乗り越え学びに変えていけるかを考える機会とする。又、学生自身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育論の基盤となる概念を学び、看護職として成長することは人として成長することであり自分自身について考える機会とする。

《授業の到達目標》

・看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、今後の看護教育の方向性を述べることができる。
・看護専門教育の教授＝学習過程を具体的に述べることができる。
・看護教育における臨地実習の位置づけを説明できる。
・看護教育の向上が看護の質保証に関連していることを説明することができると共に、看護が果たす社会的責任及び社会的貢献について具体的に述べることができる。

《テキスト》

・教材は授業で配布する。

《参考文献》

・参考文献は授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加およびプレゼンテーション（20%）、学術的レポートの提出（30%）、および筆記試験（50%）によって総合的に行う。

《授業時間外学習》

臨地実習の体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」について前もってまとめておくこと（40 文字×40 行、2 枚程度）。

《備考》

本科目は 4 年次の前期に開講するため、「看護教育」そのものへの関心が深いと考える。各自の教育体験・実習体験をフイードバックしながら、参加して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	看護教育学とは何か：関連する用語の理解、看護教育、看護学教育、看護教育学の違い、看護教育学における教育・研究、エビデンスに基づく看護学教育
第 2 週	専門職としての看護：専門職とは何か、専門職の特質・基準、専門職の特徴から見た日本の看護、スペシャリスト・ジェネラリスト、実践の学問としての看護学
第 3 週	看護教育制度：看護教育制度の歴史的変遷、看護制度の原点とその成立過程、保健婦助産婦看護師法の成立、保助看法を基盤とした看護教育制度の発展、今日の課題とこれからの看護教育制度、看護教育制度の現状
第 4 週	看護学教育の基礎：アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネージメントについてグループワークしレポートを作成し提出
第 5 週	カリキュラム：カリキュラムとは、カリキュラム開発の意味、カリキュラムデザイン、科目の構成。科目間の関連づけ、教授・学習過程の進め方と学習の支援、カリキュラム評価
第 6 週	学習理論と学習方法：学びの本質、学習理論、学習方法：主体的関わり,共同学習、PBL 学習
第 7 週	臨地実習における教育と学習：教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護教育の新しいパラダイムとしての教育的ケアリングモデル、経験型実習教育とは、経験型実習教育の基盤となる理論、経験型実習教育の実践、 学生の臨地実習を通しての学びについてグループワーク：「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」各自でまとめ提出
第 8 週	教育評価とまとめ
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅳ群（基礎看護）》

科 目 名	看護管理学				
担当者名	齋藤　智江				
授業方法	講義	単位・必選	１・必	開講年次・開講期	４年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

ねらい：対象のケアに必要なマネジメントと看護職の機能について学ぶ。

概　要：看護におけるマネジメントの概要
看護ケアのマネジメント
看護サービスのマネジメント
看護をとりまく諸制度
マネジメントに必要な知識・技術

《授業の到達目標》

対象により質の高い看護を提供するための「しくみ」を理解するとともに、看護職の能力開発の必要性を学ぶ。

《テキスト》

・系統看護学講座　看護の統合と実践〔1〕看護管理　　医学書院

《参考文献》

・「看護白書」平成 21 年度版　日本看護協会出版会
・「看護業務指針」　日本看護協会出版会
・「看護管理ハンドブック」メジカルフレンド社
・「継続教育」　日本看護協会出版会
・看護管理者の教科書　日総研

《成績評価の方法》

・筆記試験 80%
・レポート点 20%

《授業時間外学習》

・本科目は 4 年次の前期に開講しますが、これまで培ってきた組織論（グループワーク等での役割理論）を基盤に考えてください。そのうえで看護管理（マネージメント）に必要な考え方、組織という考え方等について講義をします。
授業の中でテーマを示し、レポートを書いてもらいますので、自己の在り方、自己の看護観や進もうとするところを見据えて、授業に参加してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第１週	看護におけるマネジメントの概要 1.　看護管理とは、看護管理の意義 2.　組織とマネジメント 3.　リーダーシップ、メンバーシップ 4.　看護におけるマネジメントの考え方
第２週	看護ケアのマネジメント 1.　ケアのマネジメントと看護職の機能 2.　ケアの提供システム 3.　他職種との協働
第３週 第４週	看護サービスのマネジメント 1.　組織的目的達成とマネジメント 2.　人的資源のマネジメント 3.　物的資源のマネジメント 4.　情報・技術のマネジメント
第５週	看護をとりまく諸制度 1.　看護職と専門職性・法制度 2.　看護職の法的責任 3.　看護業務、看護職の職業倫理 4.　看護職の教育制度 5.　医療制度(看護ケアの対価)
第６週	マネジメントに必要な知識・技術 1.　組織の原則 2.　看護管理にかかわる理論 3.　組織調整と組織と個人の考え方
第７週	看護管理関連資料と用語
第８週	試験

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	地域看護学実習				
担当者名	辻　立世・芝田　ゆかり・久井　志保				
授業方法	実習	単位・必選	3・必	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健・医療・福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援の在り方について、実践を通して理解する。
さらに人々の関わりを通して人間として成長し、将来の地域看護活動の基盤とする。

地域で生活している人々（個人・家族・集団）の健康の保持増進や QOL（生活の質）向上のための地域看護活動の実際を学ぶ。また、地域における保健師の役割と活動について学ぶ。

《授業の到達目標》

１．地域看護活動の展開を理解する。
　１）地域の特性および住民の健康状態、ヘルスニーズを知る。
　２）地域保健活動の組織づくりや体制を知る。
２．地域における保健師の役割と活動について理解する。
　１）地域看護を展開するために必要な家庭訪問、健康教育、健康相談、組織化活動などの援助技術を指導者の下に実践できる。
３．保健・医療・福祉との協働活動について理解する。
　１）地域の保健医療福祉のネットワークとケアシステムを理解し、各々の立場の役割および連携の実際について説明することができる。
４．地域住民に対する健康支援の在り方を理解する。
　１）地域で生活している人々が、主体的に健康を保持増進するための援助を知る。
　２）健康上の問題を持つ個人や家族の生活を把握し、セルフケア能力を高める援助ができる。
５．実習を通して、人間の尊重や倫理的配慮の方法を学び、自己成長を図る。

《テキスト》

三訂地域看護学　編著／津村智恵子他　中央法規
国民衛生の動向　厚生統計協会

《参考文献》

標準保健師講座１「地域看護学概論」編著／奥山則子他　医学書院
標準保健師講座２「地域看護学技術」編著／中村裕美子他　医学書院
標準保健師講座３「対象別地域看護活動」編著／中谷芳美他　医学書院
標準保健師講座　別巻１　「保健医療福祉行政論」　編著／藤内修二他　医学書院
その他適宜、紹介予定

《成績評価の方法》

１．出席状況、提出物、実習記録、実習態度を、評価票を参考に総合的に評価する。
２．実習終了後、担当教員と個人面接を行う。

《授業時間外学習》

実習地域の地区診断及び地区踏査の事前準備をしておくこと。

《備考》

事前準備（地区診断等）、既修の科目の復習を十分しておくこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	別冊、地域看護学実習要項参照 詳しくはオリエンテーション時に説明予定
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅶ群（地域看護）》

科 目 名	在宅看護実習				
担当者名	式　恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

健康上または障がいがあって地域で生活する療養者とその家族を理解し、その状況や特性に応じた訪問看護および居宅介護支援に実際を学び、在宅ケア全般を支える仕組みや機能と保険・医療・福祉における連携およびチームケア体制について総合的に理解する。

展開概要としては１週目は居宅支援事業所における実習、2 週目は訪問看護ステーションにおける実習である。実習施設の受け入れが 1～２名であり、教員の指導体制により５クールに分けて実施する。

《授業の到達目標》

＜居宅介護支援事業所における実習目標＞

１．在宅における要介護者とその家族を支援するための介護保険法や地域サービスの仕組みを理解する。

２．要介護者とその家族を支援するための多職種におけるチームケア体制について理解する。

＜訪問看護事業所における実習目標＞

１．在宅における療養者の健康状態や心身の状況および家族の日常生活について理解し、基本的な援助方法の実際と訪問看護の展開過程を理解する。

２．在宅看護の提供過程と訪問看護の位置づけを知り、倫理的配慮に基づいた援助を理解する。

《テキスト》

・在宅看護論：編集杉本正子　眞舩拓子　NOUVELLE HIROKAWA　平成 22 年

・在宅看護論１Ⅱ：渡辺裕子監修　日本看護協会出版会　　2008 年

《参考文献》

・厚生労働省　「厚生労働白書」

・厚生統計協会　「国民衛生の動向」

・介護保険法

《成績評価の方法》

出席状況、課題レポートの提出　実習評価による総合評価

《授業時間外学習》

・課題レポート

・実習事業所をインターネットで調べて概要を知る

《備考》

※　１人あたりの実習は２週間である。

※　５グループに分かれて実施するので、全体は 10 週間を必要とする。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	居宅介護新事業所での実習
第 2 週	訪問看護ステーションでの実習
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《Ⅷ群》

科 目 名	看護研究Ⅰ				
担当者名	坂上　晶代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する責務があります。すなわち、常に探究的視点を持って看護を思考することが重要になります。看護研究Ⅱを効果的に進めるためにも、具体例を多く準備し、できうる限り分かりやすく授業を行います(ただし、レベルは下げない)。みなさんの積極的な参加を期待します。

《授業の到達目標》
１．看護学の研究とは何か、その目的や看護哲学・理論との関係、看護実践への応用についての基礎知識を学習する。
２．研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討、方法論、倫理的配慮（研究対象者の権利擁護）について学習する。

《テキスト》
指定しない

《参考文献》
授業の進行に応じて適宜指示

《成績評価の方法》
定期試験 70%、単元ごとのミニレポート 30%
出席日数が全体の 2/3 に満たない場合は単位認定を行いません。
ミニレポートの提出をもって出席とみなします。

《授業時間外学習》
自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて単元ごとに学習内容を整理すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	看護研究の意味と意義
第 2 週	研究の構成要素（パラダイムと研究プロセス）
第 3 週	研究のプロセス１（研究疑問から研究課題へ）
第 4 週	研究のプロセス２（文献検索）
第 5 週	研究のプロセス３（文献の整理・文献検討）
第 6 週	研究のプロセス４（研究目的・目標の設定）
第 7 週	研究のプロセス５（データ収集方法）
第 8 週	研究のプロセス６（データ分析方法）
第 9 週	研究における倫理的配慮
第１０週	研究計画書の作成
第１１週	研究成果のまとめ方
第１２週	研究成果の公表
第１３週	研究論文の読み方
第１４週	研究のクリティーク
第１５週	総括およびテスト

《Ⅷ群》

科 目 名	看護研究Ⅱ				
担当者名	道廣　睦子・本多　久夫・式　恵美子・坂上　晶代・辻　立世・加藤　知可子・齋藤　智江・段　亜梅・小林　廣美・川上　あずさ ・山下　裕紀				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
学生は自ら選択したテーマで、担当教員の指導を受け研究論文を完成する。

《授業の到達目標》
自分が選択した研究テーマについて、看護研究Ⅰで学んだ研究計画書の作成から研究論文としてまとめるまでの過程を通して研究的態度を養う。
学生は看護研究の実施を通して
1.看護研究の意義やプロセスを習得する。
2.看護実践の進歩は研究が不可欠であることを学ぶ。
3.看護実践の改善・向上に向け、研究に参加する看護専門職者の責務について学習する。

《テキスト》
看護研究Ⅰで使用した書籍および資料、ノートなど。
その他、適宜指示する。

《参考文献》

《成績評価の方法》
論文は評価基準表にもとずいて内容を評価する。その他に研究や論文作成への積極的な取り組みなどを総合的に評価する。
論文７０％、取り組み態度（グループへの貢献度）３０％

《授業時間外学習》
看護研究Ⅱに関する図書・資料を読み、予習・復習を行う。

《備考》
看護研究は看護実践の身近な、学生個人に興味のある課題に取り組めるように工夫されている。学生は自ら選択した研究課題に積極的に取り組む態度が期待される。担当教員は学生の意図をくみ取り支援する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	テーマについて研究過程の見通しをする。
第 2 週	テーマについて研究過程の見通しをする。
第 3 週	研究計画書の作成
第 4 週	データ収集の開始
第 5 週	データ収集
第 6 週	データ収集
第 7 週	データ分析・解釈
第 8 週	データ分析・解釈
第 9 週	データ分析・解釈
第１０週	データ分析・解釈
第１１週	研究をまとめ論文作成開始
第１２週	研究をまとめ論文作成
第１３週	研究をまとめ論文作成
第１４週	研究をまとめ論文作成
第１５週	看護研究論文の提出

《Ⅸ群》

科 目 名	健康相談活動の理論と実践				
担当者名	大平　曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
学校教育における健康相談活動の果たす役割は大きく、その概念や特質を理解したうえで、子どものヘルスニーズに対処することが肝要です。受講者はこの授業を通じて、保健室の特質、養護教諭の職務の特質、その中で行う健康相談活動の基礎的概念を確認し、その方法を体験的に習得していくことができます。授業では、心の健康問題と身体症状や生活の変化の関わりを理解し、子どもを観る目を養い、判断力を養います。また、養護教諭の専門にどのように位置づけられるのか　相談の目標の方法、問題の捉え方、記録とプライバシーの保護、守秘義務と教育的配慮など、基本的事項をおさえつつ実践力をつけていきます。

《授業の到達目標》
○健康相談活動の概念や役割について説明できる。
○健康相談活動の基礎的理論を理解し、また、説明ができる。
○子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
○健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレーイングができる

《テキスト》
適宜プリントを配布する。

《参考文献》
適宜紹介する。

《成績評価の方法》
レポート課題（４０％）、定期試験（６０％）とし、１００点満点で６０点以上を合格とする。
授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業時間外学習》
関係図書にはできるだけ目を通す。
課題レポート作成時には、文献にあたり、科学的な報告になるよう、レポートの書き方を学んでおく。
授業で配布したプリントにはマーカーでしるしを入れるなど、理解を助けるよう工夫し、復習をおこなう。

《備考》
養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習形態の授業も加えながらすすめるが、主体的に参加されることが望まれる。また、多くがグループでの演習形態をとる予定であり、だれもが率先してリードできる力を培ってほしい。演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方）健康相談活動の基本的概念（定義、目的、意義）
第 2 週	養護教諭の職務と健康相談活動の関係
第 3 週	子どもの健康問題の現代的背景と状況
第 4 週	健康相談活動に関連する諸理論
第 5 週	健康相談活動のための基礎理論
第 6 週	健康相談活動のカウンセリングの技法
第 7 週	保健室における健康相談活動の実践（1） ロールプレーイング･･･インテーク、アセスメント
第 8 週	保健室の機能と施設設備、 保健室対応について
第 9 週	保健室における健康相談活動の実践（2）　アセスメント、健康相談 ロールプレーイング･･･アセスメント、健康相談
第１０週	心の健康問題に応じた対応の仕方
第１１週	健康相談活動の記録と報告 連携の仕方
第１２週	保健室における健康相談活動の実践（3） ロールプレーイング･･･面談の記録
第１３週	健康相談活動の評価と改善
第１４週	実践研究の意義
第１５週	学習のまとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	辻　立世				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》
養護実習は学校における養護教諭の活動実践や、学校保健活動を体験する。また、教育者としての養護教諭の役割と養護教諭の職務の特質を理解し、学校保健活動の意義を理解する。事前指導は養護実習のための知識技術の再確認と実習のための準備である。事後指導は各学校での実習成果し、評価する。学習したことを発表し、他者の発表から自分が体験できなかったことを学び直す。

《授業の到達目標》
本科目は、養護実習及びそれにかかわる事前・事後指導を含ものである。事前指導では、実習における諸注意並びに実習の心構えを含め実習の準備について学習する。養護実習が円滑・効果的な内容になるために事前学習は欠かせない。
養護実習は、学習した知識、技術を、学校教育活動、学校保健活動の中で経験し、養護教諭に必要な活動について理解を深める。さらに、学校保健計画の立案及び運営の実際を把握し、学校保健活動における養護教諭の実践を通して教育者としての養護教諭の役割を理解する。学校保健における現代的健康課題に目を向け、児童生徒の健康教育（個別・集団）に積極的に取り組み、地域保健と学校保健の連携を視野に入れた対応策について学習する。特別支援を必要とする子どもの理解と特別支援教育における養護教諭の役割及び教職員や看護師との協働について学習する。
事後指導は実習を振り返り、学生間の発表により養護実習の内容を深める。

《テキスト》
養護実習ハンドブック　東山書房　大谷尚子・中桐佐智子編著　新訂版　学校保健実務必携＜第２次改訂版＞　第一法規　教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応　（文部科学省）少年写真新聞社

《参考文献》
新養護概説＜第５版＞　　少年写真新聞社　采女智津子　編集代表

《成績評価の方法》
事前事後指導（30%）及び養護実習（実習中の態度・記録簿・その他の提出物）（70%）で評価する。
事後指導は実習報告が含まれる。

《授業時間外学習》
実習校について実態把握と実習が円滑に実施できるよう準備しておくこと。
実習中に、「保健だより」を作成し、保健だより作成の根拠を添えて提出。実習に必要な専門知識と技術の予習･復習。

《備考》
養護実習は４週間の内訳　一般普通校３週間、特別支援学校１週間

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(事前指導)
第 2 週	養護実習の意義と目標、養護実習の内容と方法
第 3 週	養護実習の準備（知識・技術の再確認）健康教育の準備等
第 4 週	特別支援学校は９月上旬、実習前、特別支援学校についてのガイダンス等
第 5 週	(養護実習)
第 6 週	(養護実習)
第 7 週	(養護実習)
第 8 週	(養護実習後)
第 9 週	実習のまとめ
第１０週	実習報告の準備
第１１週	実習報告（一般校）
第１２週	実習報告（特別支援学校）
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《教職に関する科目》

科 目 名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者名	辻　立世				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》
事後指導は各学校での実習成果を発表し、相互に評価する。他者の発表から自分が体験できなかったことを学び直す機会とする。

《授業の到達目標》
事後指導は、実習での体験発表を通して、再度学校保健活動における養護教諭の役割を理解する。

《テキスト》

《参考文献》
各自が使用したテキスト、参考書等

《成績評価の方法》
事前事後指導（30%）及び養護実習（実習中の態度・記録簿・その他の提出物）（70%）で評価する。
事後指導は実習報告が含まれる。

《授業時間外学習》
実習報告用資料作成。

《備考》
養護実習は４週間の内訳　一般普通校３週間、特別支援学校１週間

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(事前指導)
第 2 週	養護実習の意義と目標、養護実習の内容と方法
第 3 週	養護実習の準備（知識・技術の再確認）健康教育の準備等
第 4 週	特別支援学校は９月上旬、実習前、特別支援学校についてのガイダンス等
第 5 週	(養護実習)
第 6 週	(養護実習)
第 7 週	(養護実習)
第 8 週	(養護実習後)
第 9 週	実習のまとめ
第１０週	実習報告の準備
第１１週	実習報告（一般校）
第１２週	実習報告（特別支援学校）
第１３週	
第１４週	
第１５週	